

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 第71号 2016年10月

特集 甲南山岳部創部90周年記念式典

甲南山岳部・甲南山岳会

山 嶽 寮

甲南山岳会通信 7 1 号

2 0 1 6 年 1 0 月

甲南山岳部創部 9 0 周年記念式典を終えて	甲南山岳会会長	平井幹男		1
甲南山岳部創部 9 0 周年記念式典	事務局	井上知三		
次 第 / 出 席 者				3
報 告				5
アルバム				6
山行・紀行				
皆既日食		川野幸彦		12
笠谷から笠が岳		山本恵昭		18
随 想				
上高地での三日間		雨宮宏光		21
東沢再訪		大森雅宏		23
追 悼				
小原耕治先輩を偲んで		砂川彰雄		27
木全実さんを偲ぶ		平井吉夫		28
追悼 今井啓介君		川野幸彦		30
今井啓介君を悼む		大森雅宏		32
会員短信				
90周年式典/総会・慰霊祭への出欠はがきから	事務局	井上知三		35
報 告				
定時総会	事務局	井上知三		44
慰 霊 祭	慰霊祭担当	松下哲夫		46
ホームページから				
山行と集い				47
スイス写真日記				57
編集後記				64

甲南山岳部創立90周年記念式典を終えて

甲南山岳会会長 平井幹男

去る2015年10月、甲南大学岡本キャンパスに於いて甲南山岳部創立90周年記念式典を開催致しました。式典では、甲南大学学長長坂悦敬氏から、「甲南山岳会の歴史は甲南大学より長くとても感銘を受けた、またそのような歴史ある山岳部が我が校にあることを誇りに思う」とのご挨拶を賜りました。そして次に、武田雄三氏、渋谷一正氏、山本恵昭氏、谷勇輝氏の年代を越えたリレートークで、旧制甲南高校時代から現在に至るまでのその長い歴史を振り返りました。

90年という歴史はとても長く、一言で言い表す事はできませんが、六甲山山麓という恵まれた環境が甲南山岳部を育て、数々の岳人を学生山岳界に送り出したのだと思います。創設期の諸先輩方の御苦勞は想像することさえ難しいですが、現在に至るまでの輝かしい数々の記録の礎を築いていただいたことを想うと、深く胸が打たれます。昭和初期から戦前にかけての日本学生山岳界をリードする穂高や後立山、剣岳に於ける華々しい初登攀の数々、戦後の混乱期を乗り切ったの大学山岳部の立ち上げ、南北アルプスや北海道へと足跡を刻み、さらにはカナダ合宿から始まりヒマラヤにまで活動の場を広げていった多くの誇るべき記録こそが、甲南アルピニズムの真骨頂と言えるものです。

式典の最後には、世界中を旅して来られた南里章二氏に、数十年前の現地の街や人々の映像を用いながら諸外国の文化をご紹介いただきました。現在、山岳会のホームページには、先輩方の海外でのトレッキングや若手会員のスポーツクライミングの写真等が数々掲載されております。これらは会員の皆様が、国内外を問わず山への情熱を注がれていることの現れです。そこには脈々と続く甲南アルピニズムの流れが今もしっかりと存在しており、青春の日の山行が昨日の様に甦ります。

しかし、昨今、体育会の部員不足という問題は、甲南大学山岳部にも押し寄せております。これは我々甲南大学だけでなく関西学生山岳連盟、ひいては日本山岳界全体で取り組んでいかなければならない課題です。そしてまた、新規OB会員が入会しないという甲南山岳会の課題でもあります。

しかしながら、甲南山岳会会員同士の交流は盛んです。一月の雪見会でのスキーの様子に始まり、梅、桜の花見会、ゴールデンウィークの雪稜登攀、氷ノ山でのスズコキャンプ、夏の沢登りやカニの解禁に合わせた扇ノ山でのキノコ狩り等、数多くのイベントが定期的開催されています。世間に目を向けますと、山を題材にした映画作品はコンスタントに上映され、退職後にハイキングやトレッ

キングを趣味にする人口は着実に増えております。また、スポーツクライミングが夏季オリンピック種目に採用されたことは、確実に山岳部の活動が改めて注目される契機になることでしょう。我々甲南山岳会といたしましては、今後は卒業後の集まりに積極的ではなかった会員を呼び戻し、他大学の山岳会と連携した様々な行事を通じ山岳会をさらに盛り上げて参りたいと思っております。90周年というのは一つの区切りではありますが、創設当時の先輩方からの流れを受け継ぎ、甲南山岳会が100年、150年と発展していくよう努める所存です。

最後になりましたが、記念式典には長坂学長を始め、広報部や学生部、またスポーツ強化支援室からもご臨席を賜りました。さらに旧制甲南高校の大先輩から若手会員に至るまで多くの山岳会の皆様にもご参加いただき、盛大な式典となったことは慶賀に堪えません。参加をいただきました皆様はもとより、甲南山岳会の90年を支えていただきました会員の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、大学山岳部の復活と山岳会の盛況を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



式典当日の挨拶スナップ

甲南山岳部創部90周年記念式典 次第

日 時 : 平成27年10月10日【土曜日】 10:30 ~ 15:00
場 所 : 甲南大学 岡本キャンパス 511号教室 / カフェ・パンセ
第1部 記念式典 【10:30 ~ 12:00】

- I 会長挨拶 甲南山岳会会長 平井幹男
- II 来賓祝辞 甲南大学学長 長坂悦敬先生
- III リレートーク
 - 1『甲南山岳部の歩み』 武田雄三
 - 2『キシウトワルヒマラヤ遠征隊Ⅰ・Ⅱ』 渋谷一正
 - 3『今も山を楽しんでいます』 山本恵昭
 - 4『写真で綴る山の思い出 天狗原からクビカンリまで』 谷 勇輝
- IV 講 演
 - 『山、砂漠、大河、そしてアフリカ』 南里章二

【会場移動及び記念撮影】

第2部 懇親会 【12:30 ~ 15:00】

- I 挨拶・乾杯 平井一正名誉会員
- II 会員の皆様から一言
- III 部歌 【山の歌】 斉唱

進行 大森雅宏



長坂悦敬先生祝辞

出席者

来賓

甲南大学 学長 長坂 悦敬 先生 学生課長 中村 圭吾 様
スポーツ強化支援室課長 山田 聡 様 広報部 松岡 治彦 様

山岳会会員（同伴者を含みます）

1 平井 一正	名誉会員	21 塩崎 将美	大 41 経	41 大森 雅宏	大 53 文
2 福井 實	旧 17 理	22 八島 弘明	大 42 経	42 鳥井 陽子	大 54 文
3 砂川 彰雄	大 32 経	23 浪川 純吉	大 42 営	43 要 裕昭	大 55 営
4 雨宮 宏光	大 33 経	24 上本 武夫	大 42 法	44 山本 恵昭	大 56 理
5 鈴木 頼正	大 33 経	25 國分 廣昭	大 43 経	45 山本 豊子	
6 田辺 潤	大 34 経	26 赤田 正和	大 44 理	46 川野 幸彦	大 56 理
7 伊丹 弘忠	大 35 経	27 石原 浩二	大 44 理	47 八木 健	大 58 経
8 越田 和男	大 36 理	28 南里 章二	大 45 理	48 池内 友宏	大 理工
9 廣瀬 健三	大 36 経	29 井上 知三	大 48 文	49 谷 勇輝	大 H20 理工
10 藤安 賢一	大 36 経	30 井上 雅子		50 進藤 望加	
11 牧野 宏	大 36 経	31 平井 幹男	大 50 文	51 北方 龍一	新高 30
12 飯田 進	大 38 経	32 平井 千尋		52 平井 吉夫	新高 32
13 二谷 和成	大 38 経	33 平井 梓		53 大村 謙治	新高 41
14 武田 雄三	大 39 経	34 高橋 けい子	大 50 文	54 佐野 方則	新高 41
15 村上 与利一	大 39 営	35 村田 信一	大 50 経	55 佐野 美由紀	
16 安井 正	大 40 経	36 西村 清	大 51 経	56 坂田 茂樹	新高 42
17 安井 悦子		37 渋谷 一正	大 51 営	57 滝原 順	新高 42
18 水渡 清夫	大 40 営	38 大柳 香代子	大 51 法		
19 伊丹 德行	大 40 法	39 松下 哲夫	大 52 理		
20 柏 敏明	大 41 経	40 西村 綾子	大 52 法		



報 告

事務局 井上知三

当日の参加者は90歳で東京から参加、旧制高等学校の福井 實さんから大学の各時代の方々、高橋けい子さんの年代に続く女性部員、30歳の谷 勇輝さん、高校山岳部の坂田茂樹さんの年代の方々、その同伴者も含め57名の参加者となりました。

昨年から平井幹男会長の声かけで準備のための平生会を幾度も開催し色々の意見を取りまとめ、また現在山岳部が休部状態であることも考慮して内輪の会とすることになりました。会場の候補も色々ありましたが皆さんが慣れ親しんだ大学に集うこととなり、大教室とそれに隣接する建物のカフェ・パンセとなりました。

学校との交渉は副会長・安井さんを中心に、懇親会は飲食業経営の経験を生かして牧野さんにと、それぞれが時間を割いて奔走されました。お陰様で、来賓として学長 長坂悦敬先生をはじめ学生部課長・スポーツ強化支援室長・広報部の方々4名をお招きすることができましたし、懇親会の業者との打ち合わせはじめ準備も万端整いました。

いよいよ式典当日、早朝より持ち場に集まり教室のプロジェクターの調整・学内の案内板の設置と手際よく準備をいたしました。特に女性陣のまとめ役の高橋さん、受付はじめいろいろと気配りいただいてありがとうございました。

第一部 式典は大森さんの手際よく流暢な司会で始まり、平井会長の挨拶、来賓 学長坂先生の祝辞、その後リレートーク「山の思い出」はプロジェクターを使い武田さん・渋谷さん・山本さん・谷さんの順番でお話されました。最後は南里章二さんの講演「山、砂漠、大河、そしてアフリカ」を興味深く拝聴し第一部は少し時間を超過しましたが無事終了しました。

記念撮影後、平井一正 名誉会員の挨拶・乾杯で第二部 懇親会が始まり、それぞれが美酒・料理でテーブルを囲みました。楽しい雰囲気の中「会員の皆様から一言」ではそれぞれの時代の思い出話に花が咲きました。特に女性部員の話は楽しかったです。最後に部歌「山の歌」を斉唱し午後3時に閉会いたしました。

皆さんが協力してくださった素晴らしい式典・懇親会であったと思います。

最後に、懇親会会場に時報・山岳会通信・山嶽寮が展示されていましたが、これは会員のリクエストに大森さんがザックに詰めて当日持参されたものです。重たいのにご苦労様でした。感謝いたします。

アルバム 甲南山岳部創立 90 周年記念式典の様子を写真でご紹介します

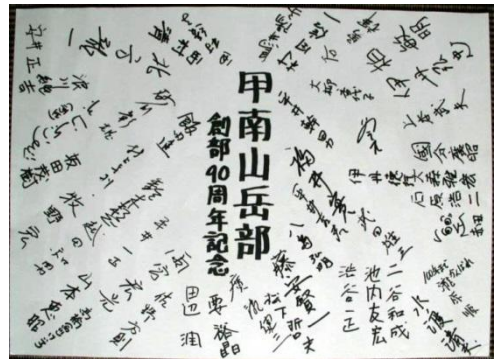












2015/11/17

甲南山岳部が創部 90 周年記念式典を開催

去る 10 月 10 日(土)、甲南山岳部が創部 90 周年記念式典を岡本キャンパスにて開催しました。

甲南山岳部は、旧制甲南高等学校山岳部が創部された 1925(大正 14)年から数えて 90 年以上の歴史がございます。その OB・OG 会である山岳会も長年活動が続けており、会報誌「山嶽寮」はこのたび 70 号を発行するなど、各地の高校・大学山岳部 OB 会のなかでも屈指の伝統を誇ります。

当日は平井幹男 山岳会会長、長坂学長の挨拶の後、高校・大学山岳部 OB でもある南里章二 元甲南高等学校教諭が講演を行いました。そのあと開催された懇親会には 60 名を超える方々が出席し、交流を深めました。

<http://www.konan-u.ac.jp/topics/news/view/top/3263>

甲南学園の大学生や
中高生でつくる「甲南山岳部」の創部90周年
記念式典が10日、神戸
市東灘区の甲南大学
(岡本8)で開かれた。
同部は1923年、
旧制甲南高校に設立さ
れた遠足部を前身に、
25年に創部。学制改革
で旧制高校がなくなっ
た後は、甲南大学体育
会山岳部と甲南の山岳
部を再発足させ、活動
を続けている。

旧制高校時代からの歴史

「甲南山岳部」創部90周年

山の思い出語り合う 甲南大で記念式典



1932年に部員が
前穂高岳北尾根に登頂
したルートは「甲南ル
ート」と名付けられる
など、国内外の多くの
山で初登頂や新ルート
の開拓に挑戦、達成し
てきたという。
記念式典にはOB・
OGや大学関係者など
約60人が参加。卒業生
4人が順番に登壇し
て、「山の思い出」と
いうテーマで、これま
での登山の様子や学生
時代を振り返るなど思
い出を語り合った。
また、サハラ砂漠や
ニシエール川など世界
各地を巡ってきた卒業
生で、甲南高校元教諭
の南里章二さん(67)が
「山、砂漠、大河、そ
してアフリカ」という
テーマで講演した。

(篠原拓真)

甲南大学山岳部に所属
していた当時の様子を
語るOB＝神戸市東灘
区岡本8

早速今朝の神戸新聞に掲載されましたので、記事を掲示板にはりつけました。山岳会の歴史にいい記念になるか
と思います。南里章二 (平成27年10月11日 ホームページ書き込み) (部分)

山行・紀行

2016年3月9日 インドネシア 皆既日食

川野幸彦（昭56理）

（はじめに）

3月に皆既日食を観にインドネシアを訪れました。雨季にもかかわらず、ピーカンの快晴で素晴らしい眺めを楽しんできました。また、嫁ハン孝行もできました。なお、皆既日食は2009年7月の中国（上海）以来です。以下報告です。

3/7(月)小雨 東京⇒マカッサル

小雨の中、品川の自宅を出発。「当日もこのような悪い天気では？」と少し不安になった。雨が強くて少し濡れた。羽田空港には8:30頃に到着。国際線第2ターミナルは初めてである。モノレールと空港が直結していて非常に便利である。早速、2万円ほどインドネシアルピー（IDR）に交換した。円とは、桁が二桁違った。超インフレである。価値は1/100である。例えば、10000IDRなら約100円である。9:30に羽田空港国際線Lラウンジに集合だが、既に大勢の人が集まっていた。今回のツアーは、5日間と8日間で各12名である。天文ガイドが主催なのでマニアック集団である。皆さん、大きい荷物を持っている。気合が入っている。添乗員の方が各コースに1名（佐藤さん・深川さん）に、天文ガイド編集長の片岡さんも同行だ。後で知ったが、このツアーには、皆既/金環日食マニアが集まり、最高で36回という方もいた。殆どの方が10回に近い。皆既/

金環日食があれば必ず出掛けらしい。2回目は私たち夫婦くらいであった。また、器材が凄かった。ほぼ全員の方の目的が写真撮影で、観望派（眺めるだけ）はこれまた私たち夫婦くらいであった。したがって荷物の量が多くて重そうである。手荷物預かりの計量計では、大半が20kg。一方、私の荷物は10kgにも満たない。双眼鏡2台と三脚。それに着替えだけである。出国手続きをして、11:45発のガルダ・インドネシア航空でジャカルタへ。フライト時間は7時間半。長い。嫌になる。ただ、機内で出されたインドネシア産のビール“ビンタン”は、最初は変な味がしたが、その後は癖になった。黒ビールのような個性的な味である。ジャカルタ到着前の機内からは、非常に発達した積乱雲が見えた。日本のものと形状が異なる。縦に長く発達していた。また、形状も豊富であった。地形の関係だろうが。暗くなる頃の17:10にジャカルタに到着（日本時間19:10。時差2時間）。蒸し暑い。気温は30℃近くあった。一気に真夏である。それにしてものんびりしている。空港職員は勤務中なのに堂々とスマホを操作していた。サボリか。日本では考えられないことである。ジャカルタでの乗り継ぎ待ち時間が約2時間。腹が減ったので軽食を取った。ツナと揚げフィッシュのパンを嫁ハンと一つずつ食べた。飲み物と合わせて11万IDR。ツ

ナも怪しい味がした。少し生臭い。19:15発のガルーダ・インドネシア航空でマカッサルへ。到着は22:45。空港で空を見上げるとおおいぬ座が天頂付近で、その下に真っ白いカノープスが見えた。高度が高い！東京では、地平線ギリギリで双眼鏡を使わないと見えない。色も赤くて貧弱なカノープスが力強く輝いていた。感激した。バスに乗り換えホテルへ。思っていたよりキレイな所である。長い一日が終わった。夜中は隣の部屋がうるさかった。耳栓が大活躍。マカッサルは、南緯5度、人口120万人の大都市で活気がある。港町。ホテルの窓からも海がよく見えた。

3/8(火) 晴れ マカッサル⇒ルウック

朝からシャワーを浴びる。お湯が熱くない。ボイラーは止まっているのか。昨夜、うるさかった隣の人は爆睡のようである。私は朝から大声でガンガン騒いだ。安眠妨害である。大人気ない態度である。朝食はバイキング。地元料理で種類も多くて美味しかった。香辛料が効いている。9:00にホテルを出発。今朝も暑い。流石、赤道直下である。空港に向かう。車道はクルマとバイクで溢れ、皆、好き勝手に走り無法地帯だ。クラクションの嵐。一昔前の阪神高速の比ではない。とにかく凄い。割り込み、追い越し、歩道走行など“何でもアリ”である。遠慮や躊躇していたら走れないだろう。事故が起きないのが不思議なくらいだ。それに横断歩道と信号がほとんどない。クルマ優先社会か。11:40発のガルーダ・インドネシア航空でルウックへ。約一時間で到着。ここは田舎の空港で何もない所だった。滑走路が1

本あるのみ。ゼロ戦が飛んできそうな感じがした。ルウックは南緯0.65度でほぼ赤道上である。この時期の太陽は、ほぼ真東から天頂を経て真西に沈む。したがって南中時に太陽は、真上で影がほとんどできない。日本では見られない光景である。また、双眼鏡での日食中の太陽の追尾は上下に振るだけなので楽であった。日本では左右にも振らないといけな。日差しは強く、日焼けが気になるが日陰に入ると意外に涼しく、大阪の夏のような蒸し暑さはない。快適である。空港からはクルマでホテルへ。7台が連なって走行するのだが、7台全車がハザードランプを点けて、前を走る車やバイクをどんどん追い抜くのには驚いた。危険な運転である。日本なら間違いなく捕まる。なお、ハザードは連なっていることの合図のようであった。違和感あり。やっと目的地に着いた。自宅から30時間ほどかかった。遠かった。昼食後、日食の説明会。天文ガイドの片岡さんが行った。前回の中国のときよりはシンプルであった。ベテランの方が対象なのかもしれないが、素人の嫁ハンはほとんど理解していないようであった。まあいいか。それにしても明日が楽しみである。夕方、散歩に出た。海がきれいである。透明度が非常に良い。歩行者はほとんどいなくて、クルマとバイクばかりである。この国は、イスラム教徒が多いようで、ほとんどの女性は頬被りをしている。また、現地の人々は穏やかで人懐っこい。愛想もいい。ただ、残念ながら何を言っているのか全く理解できなかった。観光地以外の所はスレていないようである。ジロジロ見られた。芸能人になったようだ。

外国人は珍しいらしい。また、近所のモスクからはイスラムの読経が、大スピーカーから流れ不思議な感じがした。夜は明日に備え、早めに寝た。ビールに酔って爆睡。部屋には、でかいゴキブリが2匹いる。明日退治の予定。

3/9(水)快晴 ルック 日食観測

5時過ぎに起床。西の空を見ると雲が多い。「やられた！」と思ったが、部屋を出て東の空を見るとほとんど雲がない。これはいけそうだった。ラッキー。シャワーを浴び、朝食を食べに行くが、目の前の観測地には、ほとんどの人が既に器材を固定していた。流石、天文ガイドのツアーである。ヤル気が違う。日食は7時30分から始まるのに皆さん気合が入っている。開始までまだ1時間以上ある。私たちは、双眼鏡(12倍×70mm)をセットするだけなのでのんびりである。嫁ハンは少し焦っていたが…。7時過ぎに双眼鏡をセット。ボーッと海を眺めていると、片岡さんから第一接触まで時間のアナウンスがあった。歓声が上がった。第一接触の瞬間は、双眼鏡で見ないと分からない。数分経つと左上が僅かに欠けてきた。さらに時間と共に、太陽高度も上がり、食分も大きくなった。木漏れ日には、大きく欠けた太陽が写っている。記念撮影。地元の人々は私の双眼鏡で見た太陽に感激していた。肉眼よりも太陽が大きくて迫力があるからだろう。これをスマホで撮ろうとしていたが、上手く撮れないようだった。皆既の5分ほど前からひんやりした風が吹き、周りも少し暗くなってきた。そして、最後は太陽が糸のように細くなった。

遂に、皆既まで10秒のアナウンス。胸が高まる。第二接触に備え、嫁ハンには「太陽を見ないように」伝えた。目を暗さに慣らさないと第二接触のダイヤモンドリングが見にくいからだ。3・2・1とカウント。皆既の開始。周りからは大歓声が始まる。私もピーピーと口笛を鳴らした。ダイヤモンドリングが美しい。コロナも鮮やかである。双眼鏡では、左下にプロミネンスも見える。この瞬間のためにわざわざやってきたのだ。右上には、金星と水星も輝いている。空は、濃いブルーだ。前回の中国では、真っ黒だった。コロナは、双眼鏡の視野一杯に広がっている。模様が複雑で何とも言えない光景だ。上手く表現できない。これも前回と違った。記録のために、カメラをビデオモードにして、20秒ほど周囲を撮影。真っ暗だ。「最大食時間」とのアナウンス。もう半分が終わった。もう一度、双眼鏡で見ようとしたら、外人のおっちゃんが私の双眼鏡を覗いているのではない。幸いすぐにどいたので改めて観望する。先ほどまで見えていた左下のプロミネンスは見えない。月に隠されたのであろう。相変わらずコロナは視野一杯に広がっている。そうこうしているうちに残り30秒のアナウンス。改めて裸眼で見る。頭にこの素晴らしい光景を焼き付けた。それにしても美しい。ダイヤモンドリングを再び見て、大スペクトルショーは終わった。この間2分42秒。あつと言う間の出来事であった。再び、大歓声が起こった。先ほどの暗闇がうそのようで、また真昼に戻った。



【皆既日食の太陽】

暑い。ビンタンビールを飲んで祝杯をあげた。ビールが冷えていて美味しかった。この後は、時間と共に“太く”なる太陽を楽しんだ。“観客”が次々に去る中、最後まで日食を見た。そのときである。怪しい現地のおっちゃんが英語で捲し立てるように話しかけてきた。ツアーの冊子に「片言の日本語で話しかける人には注意するように」と書かれてあったのを思い出し、変なのに関わったらややこしいこので、適当にあしらっていたら地元のテレビ局との中継のおっちゃんだった。スマホで中継していた。画面の向こうに赤い服をきた女性アナウンサーがみえた。一応、私の顔は写ったようだったが、残念ながら誰からも「川野を見た」と言う連絡はない。完全なローカル番組だったと思われる。なお、このおっちゃんは、サンダル履きで小汚かった。マスコミ関係か視聴者かは不明である。もっと愛想よく対応すればよかった。



【天文ガイド(雑誌)が主催】

この後は自由行動で、昼食後散歩に出た。海岸沿いの道を昨日と反対側に歩いた。余程、私と嫁ハンが珍しいのか、皆ジロジロと見ていた。手を振ると愛想よく応えてくれる。やはり、この辺りの人々は、外国人を見たことがないようである。それにしても海が美しい。海水浴場もある。地元の若者が泳いでいる。我々も海水パンツを持ってこればよかった。少し後悔。どなたかが「沖縄の海より美しい」と言っていた。ただ、時折、浮かんでいるペットボトルや様々なゴミには興ざめであるが……。片付けてほしいものだ。地元の方は、この海の良さが分かっていない。残念である。

夕方は、街のお祭りを見て、夕食に行った。お祭りは“魚の収穫祭”のようであった。屋台が何軒も出ていた。去年より漁獲高が増えたのを祝っているのだそうだ。ここでも我々は“見世物”だった。一緒に写真を撮ったり、握手をしたりして、それこそお祭り騒ぎだ。皆さん人懐っこい。夕食は、地元のレストラン(店名:ハワイ。インドネシアで“ハワイ”とは。違和感あり)でいつもの

香辛料の効いたもの。結構美味しかった。また、
ビンタンビールとも合う。ほろ酔いで帰った。



【LOOKの横断幕

ルウックとLOOKをかけている。駄洒落？】

22時から、ホテルの裏の台地に上がり星の
観望会。雲が多かったが、切れ間から南十字星
も見えた。初めてで感動した。思っていた通り
“小さ”かった。また、双眼鏡では、天の川の中
には様々な星雲が見えた。名前が分らないの
が残念であった。星図を持ってくればよかった。
この観望中、地元の若者が6人、バイクで通りか
かり会話を楽しんだ。日本のドラえもん・ワンピ
ース・東京などの単語がでてきた。また、彼らも
我々が珍しいのか、盛んに写真を撮っていた。
長い一日で疲れた。しかし感動の一日。雨季に
この快晴は幸運であった。日食の夢を見ながら
爆睡。ゴキブリは1匹退治。もう1匹には逃げられ
た。

3/10(木)晴れ ルウック観光⇒ジャカルタ

9時に集合。ルウック観光に出る。いつものク

ルマに乗り込む。今日は滝を見に行くらしかつ
た。まず、地元の高校に連れて行かれた。こ
こでは“大歓迎”を受けた。学校中が大騒ぎである。
スターになった気分である。この地は日本人に
好意的のようだ。理由は、以前、オランダ領だっ
たが、太平洋戦争で日本が独立を支援したから
らしい。それにしても、なぜ、この高校を訪れる
ことになったのか？地元のツアーガイドの女性
がこの高校の出身で我々を連れてきたらしい。
突然の訪問ではなく、事前に出迎えもあり、学
校側は我々を待っていた。滞在時間は30分足
らずであったがいい思い出になった。嫁ハン
は学生と写真を撮り、この騒ぎにご満悦。この後、
唯一の観光地の“滝(obyek wisata pilaweanto)”
を目指して1時間ほど車を走らせた。車窓からは、
ジャングルのバナナやヤシの実、放し飼いのウ
シ・ニワトリ・ヤギ・ネコが見えた。のんびりしてい
る。ただ、人もそうだが、動物も痩せていた。滝
は、落ち口が横に広がり、ナイアガラ
の滝の1000分の1位の小さいものであった。落差は、数
段で10mほど。ジャングルの中なので少し不気
味だ。ここの管理人のオッチャンが親切であつ
た。この辺りを案内してくれた。身振り手振りも交
え会話を楽しんだ。この後はルウックが見える展
望台へ向かった。ここは山の中腹にあり街がよく
見えた。紅茶を飲んで一服。ここで、8日間ツア
ーの人たちと別れて、我々は空港に向かった。
8日間組は明日から場所を変えてジャングル
クルーズに出るそうだ。私たちも、もう少しここにい
たかったが……。空港では、インドネシア人の学
校の先生(おばちゃん)が盛んに日本語で話し

かけてくる。教え子が日本に大勢いるらしい。皆で、日食の写真を見せ合っていた。売店で土産のTシャツを買った。ここでも外国人が珍しいのか、みんな愛想がいい。帰路もマカッサルとジャカルタで乗り換えて羽田まで。ジャカルタからの夜間飛行では星がとても美しかった。いい思い出ができたインドネシア日食。また、機会があれば訪れたいものである。今回は天候に恵まれて幸運であった。地元紙によると皆既帯で曇った所も多かったようである。雨季にもかかわらず天気にも恵まれ、嫁ハンも大満足で、久しぶりに嫁ハン孝行もできた。1秒が2000円の皆既日食は終わった。次は来年8月のアメリカ日食だ。

3/11(金)

8:30に羽田に到着。小雨交じりで寒い！冬である。インドネシアとの温度差は25℃もある。今夜は、香辛料の効いた料理ではなく、さっぱりした鍋をポン酢で食べるぞ。疲れた！

【追記】

・前回(2009年7月 中国)との比較

①コロナ:太陽直径の2~3倍。前回はほとんど見えなかった。複雑な構造がよく見えた。これは、写真では表現できないくらいであった。空の透明度の違いか。

②空:濃いブルー。前回よりも明るく感じた。日没後20分位の感じだった。前回は50分位。

③その他:気温は前の方が涼しく感じた。元の気温の違いか。中国は猛暑の夏であった。動物の動きの変化は不明。観察する余裕がなかった。前回はトンボが一斉に飛んだ。

皆既日食を何回も見ている人によると、同じものはふたつとないらしい。全てが「個性的」とのこと。この辺りが自然の不思議なところかもしれない。このため、日食ファンは、世界中に出かけるのだろう。私も不思議な魅力に取りつかれつつある。

甲南山岳会ホームページが移転しました (平成28年9月)

新URL <http://konan1923.sakura.ne.jp/>

「お気に入り」の変更をお忘れなく

新管理人 谷 勇輝 (大H20理工)

笠谷から笠が岳

2015年8月7日～9日

山本恵昭 (昭56理)

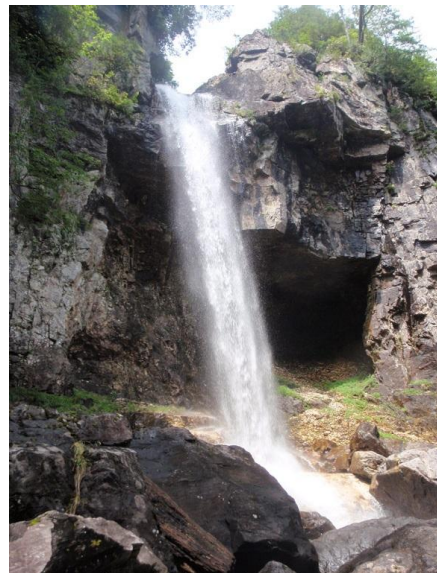
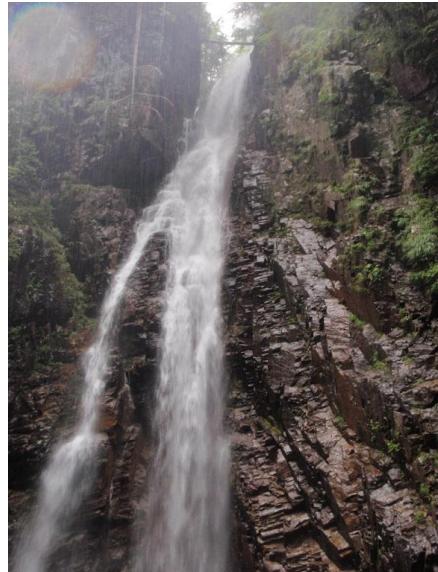
夏の沢登りにいつものメンバーとは日程が合わず、結局単独で笠谷経由、今まで行く機会のなかった笠が岳へ行ってみました。

8月7日朝、新穂高に7時前に着くと、もうすでに駐車場は満車状態。何とか隙間に止めて準備をしていると、「お仕事ですか」と隣の登山者から声がかかる。最近のお洒落なアウトドアウェアではなく、作業服仕様なので。

7:30積んできた自転車で笠谷橋までひたすら下る。自転車をデポし、準備を整えて8:10出発。2時間の林道歩きでヒアケ谷に到着。ここから先は、林道とは言い難い廃道を背より高い藪漕ぎ1時間でやっと入渓ポイントへ11:30。

沢装束に変身し、いざ出発と歩き始めると雷雨が、いや電が降ってきた。しばらく岩陰で雨宿りするが、増水の気配はないので、「どうせ濡れるなら」と逆行を続行する。

最初の65m滝は豪快。大降りの雨で落ち口が良く見えない。左岸のルンゼを登った後、左上する泥壁は落ちると下まで真っ逆さまで一歩が踏み出せない。もう少し上まで登ってみるが岩壁に行き詰る。泥壁まで戻りロープを出してクリア。息つく暇もなく洞窟の滝65mが登場。水流の裏を通過して、左岸のルンゼを登り最後はブッシュクライム。きれいな釜を持った25m滝は右岸を巻く。



核心部を抜け、1480m二俣から少し上がってテント設営15:30。全身びしょ濡れ、濡れた流木を集める気力もなく焚火を諦め、テント内で着替えて早々に夕食をとりひたすら寝る。

8日、稜線で昨日のような雷雨に会うと致命的なので、早起きし寒いけれど濡れた服に着替えなおして5:40出発。しばし川原歩きの後、右岸から滑滝が合流する10m滝は右岸から高巻き。この辺からずいぶん明るく開けた雰囲気となる。昨日ここまで上がって、テントを張れば良かった。



ここから先は、手ごろな小滝を楽しみながら、2000m二俣へ8:30。多くのパーティは左俣に入って南西尾根に突き上げているようだが、クリア尾根の登山道に出るほうが時間的に早そうなので、水を確保して涸れた右俣を詰める。雷鳥岩からのコルに出るつもりだったが、藪漕ぎを避けて左に曲がった沢沿いに進む。すぐに水流が復活し、のどが潤せて大いに助かる。所々滝が現れるがニッコリホールドが豊富で源流部を快適に登り、まったく藪漕ぎせずに登山道へ合流11:20。ルート選択は

バッチリ正解だ。

ガスに覆われた笠が岳山頂12:10。笠が岳山荘で焼酎と日本酒を購入し、テント場へ12:30。石囲いに囲まれた平坦な場所にテントを設営する。テント前の岩に濡れたものを干しながらチビリチビリやっていると、続々と登山者がやって来る。最近の傾向で仲間と来ても、それぞれに自分の個室テントを張る人が多い。あっという間にテントだらけとなり、こんな斜面にもテントを張るかというくらい満員となる。



9日、テント内から白んでいく夜空を鑑賞し、小檜横からの御来光を拝む。のんびり朝食をとる。6:40出発し、抜戸岳7:30。笠新道をひたすら下り登山口11:10。林道1時間で新穂高に到着12:10。

栃尾の荒神の湯を、独り占めで汗を流す。駐車場で地図を見ていた軽四キャンピングカーのおじいさん。軽四ワンボックスを改造し、7月に横浜を出てからいろいろな山を巡っているそうだ。赤牛まで行って笠へ回る予定で計画中とのこと、いろんな楽しみ方があるんだなと感心する。

笠谷橋で自転車回収。以前、田辺さんや武田さんたちと沢上谷沢登りの折に、軒先をお借りした物産直売所でミニトマトを購入。野菜に飢えていたのでその場で食べていると、お婆さんが「もう最後だから食べて行き」と大きなトマトや塩を出してくれる。感謝！そのままでは悪いので、なんか他に買うもの無いかと物色していると、メグスリノキの葉を発見し購入。名前は聞いたことがあったが、実際に見るのは初めて。お茶にして飲むと眼と肝臓に良いそうだ。肝臓病の人が焼酎をこのお茶で

割って飲んでしていると治ったとか。高山で昼食兼夕食を食べて、夜に神戸着。

笠谷は誰にも会わない静かな谷でした。獣の気配がいっぱい。あまりに人の痕跡が無いので、青いビニール袋の切れ端ゴミを見つけたときには、なぜかほっとしました。自分って弱いなー。

(本稿はホームページ掲示板の掲出文に加筆されたものです)

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

「笠谷から笠が岳」 ホームページ掲示板へ寄せられたメッセージ

越田和男 8月17日

なかなか渋い山歩きをやってますね。笠の西面に笠谷という沢が入っているのは気になってましたが、多分手に負えないだろうと、足を運ぶ機会もなく忘れていました。昔からこの辺は(百年の歴史のある)飛騨山岳会の人達のプレイグラウンドだったような気がします。いい記録だと思います。簡単な概念図など付けて、HPの「山行記録」に掲載されては如何でしょうか。

山本恵昭 8月17日

笠谷、今回たまたま誰にも会いませんでしたが、ネットで検索するとそこそこ人が入っているようです。写真が整理できたら、塩崎さんをお願いしてアルバムに載せて頂こうと思っています。ちなみに、あの辺りはクマの巣とのこと。私も2日目の朝、いかにも出たてという糞を見つけました。雨と川水で濡れて自分が獣のような臭いを撒き散らしていたためか、幸い作成者には出会いませんでした。一般登山道に出てからは、他の清潔な登山者の方にご迷惑だったかも。

上高地での三日間

雨宮宏光 （昭33経）

焚き火、燃やし放題の満ち足りた三日間でした。

阪神大震災のあった六月梅雨のさなか、気象情報で晴れを確認し、突然に思いついて上高地に。車のトランクにシュラフ、マット、食糧、炊事道具、テント他を積み出発。12時ごろ沢渡の駐車場着。

ザックにキャンプ用品他を詰め、テントはザックにはいらないので手にぶら下げてバスに乗り、13時過ぎ上高地着。

バス停から徒歩15分位で小梨平キャンプ場に。ボッカ？ は、これで終わり。

無人の広場に荷物をデポしてキャンプ受付の小屋にいき、500円払ってキャンプ許可のタグをもらう。このとき受付の女性が300円で薪を一束購入すれば川原の流木は「自由に燃やしてよい」と言ってくれた。上高地で焚き火とは考えてもいなかった。焚き火ができるなんて最高だ。受付の小屋にはシャワーの設備もあり簡単な食品も販売している。

テント場に引き返してテントを設営し早速に流木を集める。ある、ある梓川の川原には枯れ木がそこら中に散らばっている。

見渡せば広いキャンプ場に誰かのテントが一張だけ。夕食は道中で買った弁当と焚き火で湯を沸かして即席の味噌汁を作り、好物の目刺しを三匹焼いて終わり。酒が飲めないののですることがない。じっと焚き火を見る。なんという幸福の時だろう。私は感謝する。

20歳の夏、三の窓雪溪上部でスリップし150メー

トルほど滑落したが、靴が雪のでっばりにガツンとあたってクレバスの手前で止まった。

21歳の春、劔西面・白萩川の上で雪崩に遭遇したが、難を逃れた。

61歳、カラコルム・センチネル峰で急斜面を登攀中、ビューンと空気を切り裂いて右耳のそばを通りすぎた落石の唸(うな)りは、今も鮮烈に記憶にある。三角定規のような形の石は、氷雪の斜面で、カラン、カランと何回かバウンドして、急斜面の下部に消えた。

極めつけは阪神大震災。知人の男は庭の様子を見に行った時、石造りの門が崩れ彼の横にいた一人娘が、石に打たれてあっけなく死んだ。それ以来彼は好きだった登山もスキーも止めてしまった。私は震災で家は半壊(結局建て替え)したが家族は全員が無事だった。

そしていま大好きな山に来ている。

梓川の流れは静かに冷たく、樹々の新緑は夏を告げる。夕陽に沈んで黒ずんでいく西穂の稜線を飽きもせず眺める。さすがに夜は冷えてくるが焚き火のそばにいと暖かい。

枯れ木を足して焚き火を盛んにし、この火が燃え尽きたら眠ることにした。

翌朝起きて石でかまどを作り、そこにコッフェルをおいて湯を沸かすのに時間がかかる。コッフェルが小さくかまどの幅が狭いので、小枝しか燃やせないのです。

パンとコーヒー、チーズで朝飯を済ませて時計を見れば8時。今日一日をどうするか。

行った事がない徳本峠に行く決めゆつくりと歩

き出す。徳本峠に着き小屋横の展望ベンチに座って西穂を見る。小屋から着物姿の女性が出て来た。山で着物とは、小屋のおかみか。美しい人だった。

バス停にあった無料の周辺案内マップに、明神岳がぱっちり見える場所は小屋から一時間ほどあったので、小屋の前から歩き出したが樹々の根元には残雪がびっしり。踏み出すと膝までズボズボと潜り十歩ほど歩いてやめて往路を戻る。

横尾から上高地への道は何回歩いたのか憶えてないが、登山の後のこの道は上高地に着けば、もう歩かなくて良いとただしやにむに歩いただけ。それに対して今回は途中で川原に降りて頃合いの石に座ってクラッカーを食べ、景色を楽しむ優雅な散策が楽しめた。

テント場に帰ったのは14時ごろ。ラーメンを食べることがないので河童橋にいくが景色に見あきてテント場に引き返す。

新聞なしテレビなし電話なし。確かにザックにいたはずの石川惇『諸国崎人傳』が見当たらない。さてすることがない。梓川に居るはずの川魚を見るかと魚を探して散歩したが魚は一匹も見なかった。

テント場に戻って夕食の準備にかかる。時間はたっぷりあるのだが、食材がカレーとアルファーマシがなく、これでは湯を沸かせば終わりで時間つぶしにならない。

夜食に一品添えることにして河童橋まで行き土産物屋で漬物を買ひ、テント場に戻る。

夕食後焚き火の燃える様子をじっと見る。風が吹くと火は勢いをまし上にある焚き木に燃え移り30センチほどに積み上げた枯れ木は一気に燃え尽きる。この様子を見ていたとき焚き火のむこうに見える昔の山を思いだした。

大学1年の12月初め先輩戸田さんと北岳にいったとき、同行の案内人、竹沢藤太郎(竹沢長衛の弟)は、「先に行きます。ゆっくり来てください」と先行し、我々が両俣小屋に着いた時、ダケカンバの樹皮を両手いっぱい抱えて現れ、あっという間に焚き火を作ってくれた。小雪で冷え切った体に焚き火の何と暖かかった事か。翌日彼は樹皮をザックに詰め込んで出発し、北岳の頂上付近で吹雪にまかれた時、「絶対にここから動かないで下さい」と言って視界の外に消え、30分ほどで戻ってきて石室の避難小屋に誘導してくれた。そして小屋にあった薪の下に樹皮をくべ焚き火を盛んにし、飯を炊いてくれた。

「樹皮があれば湿めった木でも燃やせる」は、藤太郎に教えられた。

大学4年の秋、鈴鹿の愛知川を歩いた時、川原のテント場で流木を集め背丈ほどの高さに積み上げ燃やした焚き火は、すごかった。遭難者を茶毘に付すときはこれ位に薪を積み上げるのだろう。

三日目、パンとコーヒ、チーズで朝食を済ませ明神池まで散歩する。同じ道に戻りテント場に11時ごろ着。テントを撤収し焚き火の跡を石で覆って綺麗にしてバス乗り場に。

沢渡の駐車場で荷物を車に積むとき、トランクの隅に石川惇『諸国崎人傳』が転がっていた。

高速道路を帰宅途中北アルプスは雲に覆われ、小雨がぱらついてきた。次は仲間と焚き火を楽しめる山に行きたい。

友は魚を釣り、山菜を摘み、私は焚き木を集め、食事のあとは焚き火を囲んで仲間と語る。そんな山を楽しみたい。

黒部東沢再訪

大森雅宏（昭53文）

昨年の秋、リーダー山本と黒部東沢を訪れた。学生時代の昭和51年の夏に歩いてから40年近く経って、私には2度目の東沢である。歳と共に記憶はいい加減になっているが、行動中に懐かしく往時を思い出すこともあった。

昭和51年の東沢のメンバーは、1年に要・住友・西垣・藪内、2年が村岸、そして3年の大森。夏の定着を真砂で過ごして縦走でここを通って南へ向かった。もともとの計画は高天原新道であったが現場の判断で東沢に変更した。高天原新道は奥黒部ヒュッテから赤牛の裾を巻いて進み、途中で上の廊下にルートを取る箇所があった。この年の夏は天気恵まれなかった。増水した上の廊下に部分通過とはいえビブラムとキスリングでは向かいたくない。適当な理由をつけて東沢にルートを変えたのは正解だったようである。というのは、いまインターネットで情報を探してみると、高天原新道は昭和44年の水害で廃道になっていた。計画を立てたときはたぶん山岳雑誌の記録を見て「ここ行けるで」と踏んだのだろうが、進んでいたら「ずたずた道に阻まれて振出しに戻る」とか「荒廃ルートに難儀して3回休み」なんてアガリの遠い「夏山双六」になっていただろう。

話を平成27年に戻す。9月の5連休、リーダー山本が東沢へ沢登りに行こうと言いだした。私は40年前の記憶があって「あれはビブラムとキスリングで行ったところで沢登りの対象にはならないのでは」と思ったが、最近の記録を件のネットで見てみると、ちゃんとした沢登りのルートになっている。山本は、休みがまとまってとれる今回、黒部を詰

め水晶・赤牛からの北アルプスの大パノラマを見たい、高校生の時の雑誌グラビアに感激した眺めだから、と情熱的に口説いてくる。それもあるだろうが彼は基本的に水が好きなのだ。サカナがいる水の流れが大好きなのだ。一方、私としてはリーダーがサカナに向かっている間は休憩できるはずだし、荷物もそんなに重くないはずだし、通ったことのあるルートで概念把握はできているはずだし、そんなにしんどいこともないはずだし、と都合のいい「はず」ばかり頭に浮かべ、「では」となった。さりながら行ってみたら思惑と現実のギャップに、またもや直面することになった。このテの蹉跌は近年よく体験することでもあるのだが、なかなか懲りないことでもある。いやはや。

1日目 黒部ダムから湖岸のルートで平の渡しへ。昭和51年の時は別のルート、五色が原から下って来た。渡しの船は白いエンジンボートでこれは以前のイメージ通り。もちろん何代かの変遷はあったことだろう。そのボートで針の木側に渡って、湖岸を奥黒部ヒュッテへ。木の梯子や栈道が整備されていて、しかし上り下りが多くて楽なのかしんどいのか。東沢の出合は記憶の通りの白い川原の合流点。この日はすぐ先の奥黒部ヒュッテの広場にテントを張る。水とサカナが好きな山本は釣竿を、その趣味のない私はウイスキーのコップを手にする。

2日目 朝、小屋の前に元気そうな若い人の群れ。年齢が学生ではなさそう、振る舞いが社会人のパーティとも違う。シャツの背中の「TOYAMA PREF POLICE」に納得。この日は上の廊下でトレ

ーニングという。古株らしき人物と世間話をする。日下さんの時代に、三の窓などで事故者の搬出に協力したことがある、と言っても先様には理解の外的様子。二次災害の発生にはどう責任を持ちますか、ということなのだろう。それも昨今の環境からはよくわかる話。

さて、この日は小屋の横から東沢へ踏み跡をたどり、ほどなく沢筋に降り立ち水の中を進む。しばらくするとゴルジュに突き当たる。実は今回、東沢か上の廊下かルートを選択に悩んだ。悩んだ末に東沢にしたのは水温の低さと水量の多さからである。そんなことで急流の泳ぎや渡渉が待つゴルジュは当然に敬遠、高巻きにルートをとる。何回かの高巻きでゴルジュをやり過ごす、谷が開けて明るくなる。学生の際はゴルジュの記憶が全くないので、小屋裏からこの辺りまで踏み跡をたどって進んだのだろう。あのときの印象は白い川原と開けた空。40年の歳月は沢に植物を茂らせてイメージを変えていた。植生の中の沢筋を進む。東沢は傾斜が緩い穏やかな谷で、時に出てくる幅の広い落差の小さい滝と広い淵が特徴といえど特徴、その淵ごとにリーダー山本はサカナを探す。眼鏡にかなう場所で大休止。持参のミズに毛バリに現地調達の羽虫にといろいろトライ。私は羽虫調達に少しばかり協力して、そのほかは40年前の思い出を手繰る。確かにあの年はビブラムで歩いたが、いまやこの沢にそんな面影は全くない。流れの一段上の台地にしっかりと踏み跡があった、と思うがそのあたりはブッシュに覆われている。リーダーからは、高瀬川側にもう一つ別の東沢があるけれど、昔行ったのはそちらではないか、との指摘もあった。記憶がいろいろ加減になっているとはいえ、いくらなんでも登ったルート、沢そのものを間違えることはない。あの年、私たちは奥黒部ヒュッテから東沢乗越、三俣蓮華、双六、新穂高へ

と歩いた。テントは一ノ沢だか二ノ沢だかの出合近くの樹林に張った。西垣だったか藪内だったかがコンロのガソリン補給にテントから出た。あいにくの雨に「どうせ濡れるなら体だけで濡れてきますわ」とパンツ一枚になってテントから出て行った。どうでもいい思い出だけれど、そんなことが懐しくよみがえる。このパーティの住友・要とはのちにヒマラヤをともに経験した。藪内とはバイクツーリングによく出かけたし酒もよく飲んだ。昭和60年、正月の鹿島に逝ったのが寂しい。西垣は卒業までのメンバーではなかったが、その藪内の追悼冊子に思い出を寄せてくれた。村岸は「しんどい！ しんどい！ しんどい！」とテントで寝言を言いながら山を続けた。そんなことを懐かしむ間に釣り師山本はイワナを何匹か釣り上げてきた。



昭和51年のメンバー

住友 / 要 / 藪内 / 西垣 / 村岸

私の思い出タイムは終了し、先に進む。乾いた台地の快適テントサイトは別パーティがテントを張っていたため、更に上部を目指す。谷は少しずつ狭くなって、ようやく探したテントサイトは流れに近く砂地は湿り加減。イワナを焼くにも焚き物が不自由、それでも山本が意地になって煙と格闘した。

3日目 源流を抜けて赤牛への稜線を目指す。この辺りまで来ると沢の傾斜も幾分増して、樹林も少なくなる。上部に水晶岳を見て、40年前に左の

東沢乗越を目指したとは別のルート、水晶岳東面カールへ続く右の沢に。東沢乗越から水晶を回るよりショートカットになるのを狙って、ルートは地図とにらめっこしたリーダー山本が決定した。この後稜線に出ると水がない。沢の途中で最後の給水。今日の残りとエッセンと明日の奥黒部ヒュッテまでの分。水が飲めなくてばてるか、水が重くてばてるか、どっちにしてもばてるのはお約束である。ルートは四角く崩れたブロック状の岩に覆われている。上部はガレと草付。ずっときつい傾斜が続く。



東沢 源流

振り返ると紅葉の東沢源流。歩けば着く、歩かねば着かぬ、と心に繰り返すうち足取り重く山本より大分遅れて稜線に到着。はるかに東沢乗越が見える。40年前のあれは8月のこと、稜線直下は急な雪渓であったが今は思いもできないほどの力強いキックステップで歩を進めたのではなかったか。あの年はひどく天気が悪かった。三俣蓮華近くで撮ったスナップも雨具をつけていたし、おぼろげな記憶では夏山合宿の行動中、雨に遭わなかったのは2・3日だけであった。勿論降り続けに降っていたわけではなく、行動には全く差支えない程度の降雨も含めての話である。思えば要が雨男で、空を見上げた彼が手招きをしながら「こ〜い、こ〜い」と唱えると雨粒が落ちてきたこと

があった。

私が東沢乗越に目をやる間に、リーダーは「稜線を赤牛方面に進め、温泉沢の頭を越えたあたりの稜線は広がっているから適当なテント場を探せ」と指示して、水晶岳を往復するために空身で出かけて行った。「黒部源流のおいしい水」で重くなったザックを背に泊地に向かう。温泉沢の頭を下ると予言のとおり稜線は広くなり、快適なテント場が散在している。どこにしようかと思ううちにリーダー山本が追い付いてきた。

4日目 山中3泊が過ぎた。こんなに日数の長い山行は久しぶりである。加えて下山はもう1泊してからのこと。おまけに昨日の終盤から不調。黒部の源流3リットルの重さに参って食欲なし。スープとレーションで無理やり朝飯を済ませる。

ところがテントを出ると夜明け前の素晴らしい眺め。裏銀座の稜線の向こうに朝日が昇る。稜線が金色に光る。振り返った薬師にも光がさす。こんな眺めがあるから懲りることなく蹉跎を繰り返す。左右の素晴らしい眺めに目をやりながら赤牛を目指す。赤牛の頂上からはパノラマを楽しめた。進行方向正面に一ノ越、右に雄山、奥に剣。大日の稜線をバックに弥陀ヶ原が緩やかに広がっている。どこを向いても、あそこ登った・あそこ歩いた・あそこ滑った。思い出がいっぱい詰まった山が見渡す限りに広がっている。リーダー山本の思い入れ、彼が高校生の時に見入った山岳雑誌の折り込みグラビアのパノラマをしっかりと目に焼き付けて、読売新道を下る。上部はフリクションのよく効く白い大岩を拾って進む。連日の好天、紅葉の樹林帯を過ぎるあたりまでは全く快適。ほどほどのペースに気分も和む。もともと奥黒部ヒュッテまでこんな快適が続くはずもなく、半ばからは急な泥道、更に下半は木の根の入り組んだ、こんなのが登山道

かというようなのを下ることに。この日も、歩けば着く、歩かねば着かぬ、と心に繰り返すうちようやく奥黒部ヒュッテに。東沢出合で少し長めの休憩。明日の下山は連休最後の日になることから、出来るだけ先へと歩を進める。往路と同じように、楽なのかしんどいのか解らない梯子と栈道をたどり、渡し場につくと最終の便まで1時間ほどの待ちになる。釣り師山本は栈橋に下りて竿を出す。毛ばりで誘って早速かかった相手が「大物」すぎた。折られた竿を持つ釣り師が悔しい顔をする。竿の補修をして再び栈橋に。こんど釣れたらうまく手繰り寄せるから、取り込むのを手伝うようにとのリーダー命令。私も横に控える。そして、釣れた。釣り師の回顧を紹介する。

『今度は慎重に毛鉤を水面近くに漂わせる。しばらくの静寂の後、突然波紋が出来たかと思うと鱒が毛鉤を追ってジャンプをした。そして、フィッシュオン！まるで釣り漫画の一場面のような。ゆっくりと岸に寄せ、最後は手掴みでゲット』、となつて、その手には40センチを超えるニジマス。釣り師の手掴みで、私の出番はなかった。



釣り師と獲物

この日の夜は山中4泊目。ちょっと贅沢して平の小屋に泊まることにする。小屋の大將にニジマスを焼いてほしいと頼んだが、ダメの答え。それなら

と小屋の前でコンロを出す。網は山本自作の針金細工。ビールも仕入れた。心地よい夕べが過ぎてゆく。

5日目 早朝より梯子と栈道交じりの道を湖畔に進み、黒部ダムを経て扇沢へ。全日晴天。ばてはしたけれど予定のコースをトレースできた。

山登りを続けていて素敵なルートはいくつも経験したし、再び訪れてみたいと思うルートもいくつかあった。とはいえ本当にもう一度の機会に恵まれることは稀である。今回チャンスを得て、東沢をまた踏むことができた。

東沢でいくつかのできごとを懐かしく思い出せたのは、この年の8月に学生時代の山の写真を画像データーに加工していて、その折にこの風景を目にしていたからかもしれない。あるいは現実を目にした雄大な風景に、過ぎし日の若かりしあのメンバーを重ね合わせたからかもしれない。

気の合う仲間ときれいな水と素敵な眺めを楽しんで、オマケに40年の思い出を辿ることができて、印象深い5日間の山行になった。リーダー山本に感謝する次第である。

タイム (リーダー山本の掲示板書込みから抜粋)

平成27年9月19日 2:30 扇沢 下の駐車場にて仮眠 / トロリーバス 7:00 / 平の渡し 12:00 / 奥黒部ヒュッテのテント場 15:30

20日 7:30発 / 1740m付近で絶好の釣りポイントに、約1時間の道草 / 2010m付近テント場 16:30

21日 7:00発 / 水晶岳東面カールへ続く右の沢經由登山道14:30 / 水晶岳を空身で往復し、温泉沢の頭を越えた辺りで泊 16:00

22日 6:00発 / 赤牛岳山頂 8:00 北アルプスと真ん中 / 13:00 奥黒部ヒュッテ / 平の小屋泊まりということにして、最終17:20の渡し船を目指す。

23日 6:10発 / 放水中の黒部ダム 10:00 / トロリーバス 10:35 / 扇沢から大町温泉薬師の湯、ひたすら神戸へ

通称オニさんが亡くなって一周忌も過ぎましたが、未だ信じられない思いです。尋常科から甲南に入り、姫路からSLの引く列車で通ったそうです。大学1年迄はハンドボール部で活躍していました。

越田君がいつかの山嶽寮に書いていた様に、山岳部の部室は常に誰かが在室し又部員で無い人もたむろしている状態でした。特に仲の良かった柳沢（リュウ）君が居たこともあり、いつのまにか部室の主の様な存在となり併せて山岳部員となった次第。この様な例はオニさんの友人で同じ姫路から一緒に通っていた島津了さん、ことナマズさんも、更にもう一人、隣りに部室があった剣道部の柏君も自分の部室より山岳部の部室に居る方が長く結局、部の鞍替えをした一人です。

オニさんは部室の主ではありませんでしたが山行に参加したのは遅く（勿論普段の六甲やロックガーデンの練習には参加していましたが）53年の冬の八方尾根。中高大の合同合宿からでした。この時はもっぱら黒菱でスキーの練習と八方の第3ケルン迄のボッカ程度だったと思います。

54年夏山の劔岳二股合宿に於ては八ツ峯の下半分、源次郎等のロッククライミングを楽しんでいます。その後、立山、薬師岳、黒部五郎岳、三ツ俣蓮華岳を経て槍ヶ岳登頂、槍沢を下って横尾、上高地へ下山。（この山行に小生は春の検診で結核と診断され合宿には参加できず無

念の留守番であった）

卒業後の就職は(株)上組と異色の会社へ。御承知の通り日本一の港湾物流会社であり、幹部候補と言えども荷上の一から経験させるとの方針で、60 kgのバナナの籠を担いでハシケ積するとか、牛の生皮を担いだりと大変な経験をさせられた様だが、彼らしい根性で乗り切り、鹿児島・名古屋の支店勤務もこなし、本社で定年を迎えられた。

山岳会の会合にはほぼ皆勤ではなかったでしょうか。旧制諸先輩中心の乗鞍鈴蘭での集会、新制が主になりだした駒王の集会、その他、ガチャ主催の中尾平集会、その後を引き継いだ安井君主催の森井での集会、ほぼ皆出席で会食後のオニさんを囲んでの硬軟とりまぜでの独演会には、皆んな聞き入った忘れがたい楽しい思いでありました。

平成26年の秋の集会の欠席通知に「体調不良の為、この度の集会には参加できません。残念です」とあり一度電話でもと思いながらつい打ち過ぎてしまい、翌年4月23日に奥様からのお電話で御逝去を知らされ、茫然自失、信じられない思いでした。山岳部関係への知らせの御依頼をされ我に返る始末。小生も今年で82才。そう遠くない時期にお会いできるのを楽しみに。

合掌

平成28年7月

木全実さんを偲ぶ

平井吉夫（新高昭32）

木全ガイさんの訃報に接し、少年時代の風景がまたひとつ消えたことを悲しく思います。

ガイさんは私より4学年上で、私が甲南中学に入学して山岳部に入ったときは、すでに高校2年生でした。そのガイさんを私がこれほど懐かしく思うのには、二つの理由があります。

ひとつは、ガイさんの古巣がもともとグリーククラブだったこと。私も歌が好きで、後にグリーククラブに入りましたが、ガイさんとはよく二人で合唱しました。当時、山岳部の部室はかつて相撲の土俵があった中庭のようなところに建っている二部屋続きの小屋の一室で、隣の部屋は後に大学の剣道部が占拠するまで空き部屋になっていました。ガイさんと私がデュエットをするのはいつもその部屋でした。

あるとき、いつものように二人で合唱していたら、隣の山岳部の部室から部員たちがどやどやとやってきて、「携帯ラジオ、どこにあるんや？」と聞かれました。どうやら皆さんはガイさんと私の歌声を、ラジオから流れるプロの二重唱と勘違いしたらしい。これにはガイさんも私も嬉しくて、二人でニンマリしたのを鮮明に覚えています。

いまひとつは、ガイさんが説教の名人だったこと。ガイさんは山岳部員とはいえめったに山に行かず、私が知っている高校山岳部時代のガイさんの大きな山行は、1951年の夏山・涸沢合宿と同年冬の細野スキー合宿だけです。週末のロックガーデンや近在の岩場でのトレーニングにも、ほとんど参加しなかったような気がします。

そのガイさんが、ある日、私たちに、骨身に染みる説教をしたことがあります。そのころの高校山岳部の高校生部員は実質的には2回ダブって高校に居残っている田辺ガチャさんだけで、中核は私を含めた中学3年生でした。その中学生がガチャの厳しい指導でときには大学生並みの山行をしていたことは、私の少年時代の思い出をどれほど豊かにしてくれたか知れません。

まあ、ガチャさんには数えきれないほど説教をくらいましたが、ガチャの説教は怒鳴るのが主で、そのうち私たちも慣れてしまったのでしよう。そんなとき、すでに大学生になっていたガイさんが私たちの前に現れました。どうやらガチャにたのまれて、少々たるんでいた私たちに気合を入れにきたのでしよう。

この説教がすごかった。ガチャのように声を荒げることはないのですが、歌で鍛えたドスの効いた声で、諄々と諭すように説教します。私たちはもう恐れ入るばかりで、説教が終わったときはすっかり反省して、ガチャ指導の中学生には身に余る山行に励んだものでした。

私は高校を卒業すると甲南を離れて東京に出たので、それ以来ガイさんと接したことはありません。

古稀を迎えたころ、私は癌を患って消化器のあちこちを切除しまくる大手術を受けました。大腸癌が巨大化してあちこちの消化器に浸潤し、「こんなバカでかい癌は手術が不可能かもしれないので、まず抗癌剤で少しでも小さくしよう」という医師の診断で、しばらく私は抗癌剤投与の生活を続けました。飲むのではなく、胸に穴をあけて5円玉みたいなポートなるものを埋め込み、そこに管を通し、小さなポンプを首にぶら下げ、そこから絶えず抗癌剤を静脈に送り込むという仕掛けで、この状態で日常生活を送ります。

そんなとき、私の家に木全ガイさんから電話がありました。なにしろ50数年ぶりなので、声を聞いても誰だかわからず、「キマタや」と言われてもなかなか思い出せず、「ガイや」と言われてどっと記憶がよみがえりました。私が癌を患っていることを誰かに聞いたらしく、お見舞いの電話をくれたのです。

今どんな治療しているかと聞かれ、私は抗癌剤注入ポンプの話をしました。するとガイさんは、「そのポンプはおれが最初に日本に輸入したんや」と言うではありませんか。これで話はひとしきり盛り上がりましたが、それよりもなによりも、別れて50数年になるガイさんが私を忘れず電話で見舞ってくれたことが嬉しくて、涙が出そうになりました。

そんなこともあったので、甲南中学・高校時代6年間だけの短いお付き合いではありましたが、木全実さんの追悼文を書かせていただきました。

追悼 今井啓介君

川野幸彦（昭56理）

今井が亡くなってから、1年が過ぎた。今も上野に住んでいて、突然、携帯電話に連絡が入るような気がする。亡くなる数日前の夜に電話したところ「今日はとてもしんどい。朝から寝ている」。「直ぐに、病院へ行くように」と言ったが「休日なので病院は受け入れてくれない。こんな時間に行ったら病院の人に怒られる」との返事。「このように具合の悪いときには直ぐに病院に行かないと、担当の先生からはもっと怒られるぞ」と伝えたら「分かった」。これが最後の会話となった。独身なのでどれほど不安だったのか。その後も、気になったので数回連絡したがつながらなかった。そして弟さんからの計報。症状が悪いのは分かっていたが信じられなかった。もっと、いろいろな話をしたかった。聞きたいことも一杯あった。酒を控えるように強く言えばよかった。など。悔いだけが残った。先輩の大森さんと同期の山本恵昭と三人で見送った。安らかな表情であった。真夏の暑い日だった。今井の顔を見ていると様々なことを思い出した。

私は、昭和52年春、大学に入学と同時に山岳部に入った。今井とはそこで初めて出会った。年齢は一つ上で、物静かな感じがした。当時、新入部員は、私と今井以外に、関、宮田がいた。また、夏山前には山本が入った。しかし、大学4

年間続けたのは、今井・山本・私と三人だけであつた。残念ながら、関は1年で、宮田は2年で辞めた。

今井とは、数々の山行を共にした。初めての山行は、入部して直ぐの週末、六甲の蓬莱峡であつた。朝食の準備をしているときに、熱湯の鍋がコンロから倒れて、今井は足首に火傷を負った。慣れないテント内での炊事の結果であつた。これが原因で、今井は初めての合宿に参加できなかった。その原因が私にもあつたので責任を感じた。

同期の今井と山本は、二人とも中学・高校と山岳部で、私よりも経験が豊富であつた。私も高校時代は、山岳スキー部に所属していたが、山登りよりスキー（距離スキー）が主で、高校時代は白馬岳に三回登っただけであつた。二人とも体力はあるし、何よりも山に“慣れて”いた。1年生の合宿では、三人の中で、いつも真っ先に私がバテていた。特に今井は強かつた。私の大嫌いなボッカ山行を好んでいた。これは理解できなかった。しかし、岩登りは今ひとつだった。ぎこちない登りで“落ちるのではないか”といつも冷や冷やしながら見ていた。一方、山本は違った。岩登りは上手かつた。体力の今井。技術の山本。そして、コミュニケーションの川野であつた。

3年の冬山合宿は、槍ヶ岳の北鎌尾根と硫黄尾根であった。偵察も兼ねて、11月に、今井と山本は北鎌尾根に、私は硫黄尾根に向かった。ご存知の通り、積雪期の北鎌尾根の核心部は独標である。数ピッチのⅢ～Ⅳ級の岩登りがある。岩登りの苦手な今井は山本に「ラッセルは俺がやるから、独標は頼む」と言ったそうである。11月の北鎌はかなりの雪が積り、この時期、入山者は皆無で取り付からラッセル続きでさぞ大変だっただろうと思う。また、岩にも雪が付き困難だったであろう。結局、ラッセルは、今井が行い、悪い所は全て山本がリードしたらしい。

3年の春山合宿は、後立山の縦走であった。七倉から入山し、針ノ木から白馬まで2週間程かかった。ここでも、今井はキレットなどの核心部でルート工作をすることはなかった。全て、山本と私が行った。今井は岩登りが大嫌いであった。一方、私と山本は大好きであった。悪い所が現れると燃えた。

大学4年の冬山は、奥大日尾根から剣岳を目指した。この年は、昭和五十六年豪雪で嫌になるくらい毎日降り続いた。案の定、下山時に雪崩にやられた。7人で雪の斜面を真っ直ぐに登っていたら、先頭の今井とセカンドの大勝の間で雪面が割れて5人が流された。その距離は約800m。私は最後尾にいた。流されている間は、どうすることもできず、「止まってくれ！」祈るだけだった。雪崩の直後に今井は、呆然とする大勝をよそに「誰かが埋まっているかもしれない」と

雪崩の跡を掘っていたらしい。今井の優しさを感じた。山岳部では数少ない美談である。

27歳の冬（30年前）に、一つ上の藪内さんが鹿島槍ヶ岳で遭難した。当時、私は長野、今井は松本に住んでいた。連絡を受け直ちに白馬の民宿に向かい捜索に出掛けた。当初、ヘリで稜線まで上がる予定だったが、悪天のため歩いて登ることになった。これは辛かった。久しぶりの冬山でバテバテ。冷池の冬期小屋から鹿島を目指し、捜索隊が先行し、私と今井はそのサポートだった。しかし、余りの強風と寒さそして疲労のため、サポートすることなく途中から引き返した。この行動に対し先輩方からひどく怒られた。我々は生命の危機を感じたのだ。この後の下山もバテバテで大変だった。今井は、遅れるばかりで荷物を後輩に持ってもらった。こんな今井を見たのは、1年の春（知床半島）以来であった。現役時代の“体力の今井”の面影はなかった。これに懲りたのか、今井は、藪内さんの捜索を最後に山に登ることはなかった。楽な“リフトを使える”スキーばかりであった。私は、今でも同期の山本や先輩の大森さんとバリエーションルートに出掛ける。これを今井に伝えると全く興味を示さなかった。一方、今井は、その後、長期の休みには、海外旅行に行っていたが、最近では、休日には“朝から飲んで”いた。若いころから酒が好きで強かった。就職面接で「君の自慢できることは何か」に対して、「日本酒を一升飲みます」と答えたという。酒

豪である。

今井から「吐血し、入院している」と連絡があったのが、一昨年の秋であった。直ちに上野の永寿病院に見舞いに行った。原因は過剰なアルコール摂取による肝硬変であった。見た目は元気で問題なさそうであったが、その後、症状は進み八か月後に亡くなった。これまで会社の健康診断で注意は受けていたはずなのに、なぜ、こうなるまで放っておいたのか。残念で仕方ない。

今井は昔から、人に対して『ありがとう』を余り言わなかった。しかし、病気になってからは違った。度々、会社の皆様、中学高校の同級生で医師の辻井様、先輩の塩村様などに「よく

してもらっている。ありがたいことだ」と人への感謝を話していた。また、病気が治ったら「皆さんを自宅に招いて、お礼の宴会をする」と言っていた。「俺も呼んでや」と言ったら笑っていた。

今井は、明石の『石ノ谷霊園』にご両親と眠っている。近く、皆で訪れる予定である。そして、今井も交えて大宴会だ。合掌。

今井啓介君を悼む

大森雅宏（昭53文）

昨年の夏、岳友今井啓介君の訃報に接した。58歳という年齢での別れは、いかにも残念であった。また、亡くなる原因となった肝硬変には、私にもその責任の聊かがあるのではないかと思うと、申し訳なくもあり悔いも残った。

今井君は六甲高校の出身でその山岳部の出身でもあった。昭和52年春に甲南ACのメンバーとな

った。額が広く口が大きく顎が細く、というその外見から聡明そうで意志が強そうな印象を受けた。その後の付き合いで、印象は間違っていなかったと知れた。入部の年、1年・4年という学年の関係から、在学中に特に多くの山行を共にしたわけではなかった。しかしゲレンデのトレーニングや合宿での出来事、また40年に近い卒業後の長い付き合いは、私にとって大切な思い出になっている。

そのいくつかを振り返り早すぎる別れを悼みたい。

入部早々の六甲山で、今井君がテントの中で足に火傷を負ったことがあった。ご両親にお詫びに伺いたいというと、「この程度の怪我でそれには及ばない、立場が変わってあなたが私であってもそう思うでしょう」と断られた。その内面の最初の印象であった。

山岳部では体力と技術が求められる。歩荷とラッセルについて彼は断然のトップの評価であった。秀でた体力と忍耐強い性格のたまものではないかと思う。六甲山のトレーニングでも重いザックを背にペースを落とすことがなかった。初めての冬山は北方稜線のサポートとして入った剣だったが、ラッセルもパワフルなものであったと聞く。1年の剣・知床、2年の北方稜線・鹿島槍、3年の北鎌尾根・七倉から白馬、4年の剣 奥大日が積雪期の合宿の対象になった。画像の記録を見ても、雪の世界は得意の分野であったようで、テントサイトでたばこを指に挟んだ呵呵大笑の羽毛服姿がいくつも残っている。笑い顔でいえば時に見せる含羞の笑顔も印象に残る。

一方で岩登りとスキーについては歩荷・ラッセルほどの評価ではなかった。しかし40歳ころの今井君は、正月休みになるとヨーロッパのスキー場に通い続けた。かろうじて松の内に届く年賀状は何年も続けてスイスやイタリアのスキー場の絵葉書であった。あるいは卒業後の松本勤務の時期に、ゲレンデスキーを正しく学んだのではないか。

要は当時の指導が悪かっただけで、ひょっとしたら岩登りも私たちの教え方がまずかっただけ、ということであったのかもしれない。

また、細かなことは気にしないという一面もあった。昭和53年の春、知床に出かける大阪駅で「防水ケースに入れた旅費を落としてしまった」と打ち明けられた。聞けばフィルムケースに入れていたという。「確かに防水はしっかりしているなあ、けど滑りやすくして落とすだろう」。私の学生時代に今井君と出掛けた山の最後の思い出になった。

事故の思い出もある。彼が4年の昭和56年の正月、奥大日の下山での雪崩。56豪雪の馬場島はスキーで腰上まで、わかんで首までのラッセルだった。事故の報を聞いて、富山から3日をかけてようやく到着した我々が、「こんなラッセルは今井の得意分野やなあ」というと「帰りは任せてください」と笑顔で返した。全員無事であったこともあっての軽口であった。

別の事故のこと、昭和60年の正月に今井君の1学年上級生であった藪内昭博君が社会人パーティで鹿島に逝った。既に社会人になっていた今井君にも搜索の援助を戴いた。当時松本在住ということもあって、事故直後から夏の収容まで、実際の搜索を始め各種の情報収集にといろいろと無理をお願いした。そのひとつひとつに快く応じてもらえたことも懐かしく有難い思い出である。

また、15・6年前のこと、会員名簿の作成にあたりメールアドレスを尋ねたことがあった。返ってきたはがきには「そんなシャレたもんはありません」と書かれていた。ユーモラスな一面も持っていた。

今井君は卒業と同時に、新明和工業株式会社に入社した。新明和は前身が川西航空機で、救難飛行艇「US-2」が有名だが、各種輸送機器を扱う。その中でダンプカーやタンクローリーなどの特装車の営業畑を歩んだ。長野から北関東にかけての各地と福岡に勤務した。

最後の勤務地となった東京営業部に異動になった3年前の春、「異動を見てくれましたか」と電話をかけてきた。いぶかる私に、「上場企業の異動は日経に出ますがな」。世間知らずの団体職員である私は迂闊にもそんなことも知らなかった。東京の基幹部門の一つの責任者になったことにお祝いを述べた。独身の彼は家で話す相手がいない。それまでもちょっと楽しかったりちょっとへこんだりしたら、電話をかけてきて2・30分の話しになることが多かった。

最後に会ったのは亡くなる前年の平成26年10月、大きな台風が去った日だった。仕事からみの上京時に上野の勤務先を訪ねた。肝硬変の進行で腹水がたまり日常生活もつらい、仕事も休職することになったという時期だった。緩徐に進行する肝硬変に、どうしてもっと上手に酒と付き合わなかったのかと、その時期になって口に出すのは意味がなかった。第一そのような飲酒習慣の入り口に私がいたことも事実だった。

現役時代に今井君は、七倉から後立山の針ノ木・鹿島槍・五竜を経て白馬まで長大な春山合宿を計画したことがある。彼が3年生でリーダーを務め、そして成功した。

その合宿が終わって残ったエッセンと燃料を組み替えて、2年生1名と更に白馬から日本海まで足を延ばしたと聞いたときは随分驚いた。春山とはいえひと荒れ来ると、湿気を含んだ重い雪に降り込められる。厳しい風もある。白馬から日本海、ルートは長いうえにエスケープがない。今日の天気はもちろん何日か先の天気をみて、進むか戻るか正しい判断が必要だった。その判断を見事にやってのけた彼が、自身の健康には正しい判断ができなかった。「飲むのもほどほどにね」、と声をかけるご家族もいなかった。

ならば、多少の影響力を持ったかもしれない親しい連中が、その代わりを務めることができなかったらどうか、と思うことがある。もしそんなことを試みていたら、今井君は「考えてみる」と答えたのだろうか。それとも「ご同類のあなた方から聞く話ではない」、と遮断したのだろうか。

この先何年かたって、私が今井君と同じ場所に行くかどうかはわからない話であるが、今度会ったら聞いてみたい気がしている。

会員短信

90 周年記念式典

名誉会員

平井 一正（名誉会員）

創部90周年おめでとうございます。

特別会員

鈴木 敬吾（特別会員）

創部90周年おめでとうございます。御盛会を祈念申し上げます。

旧制高校

武田 六郎（旧13理）

高齢のため欠席させていただきます。

赤松 二郎（旧14理）

甲南山岳会が90才という事は私も年令が今年で95才になりますが体調思わしくなく、とても人様の前に出られませんので欠席と致します。盛会を祈っております。

小川 守正（旧17理）

もう生きとるだけです。長生きしすぎた感じ。死ぬ訳にもいかずなんとなく生きています。皆様のご健勝を祈ります。

福井 實（旧17理）

記念日には出席させて頂きます。年令がトシなので「ボケ」て来ましたが、何とか元気に過ごしています。付き添いはなし。皆さんに逢えることを楽しみに！！

澤田 晃（旧17理）

ご丁寧到会のお知らせを頂きましたが、主人は平成25年11月29日に他界いたしました。ご連絡が遅れました事をお詫び申し上げます。ご盛会を心からお祈り申し上げます。澤田 清子

小林 誠（旧17理）

満93才元気ですが歩行困難に付出席できません。皆様によろしく。

伊藤 長次郎（旧21理）

山行きはご無沙汰ですが、山岳部で鍛えたお蔭で90才になっても元気です。

前田 金剛（旧24理）

高齢のため欠席しますが記念式典の盛会を祈念します。

丸山 照夫（旧25文）

高齢の為出席できません。以後ご案内はお送り下さなくても結構です。長永年ご案内下さり有難うございました。

東野 寿（旧24理）

入院騒ぎこそしませんが、アチコチ具合の悪いところばかり、遠出はできそうにありません。諸兄にはよろしく！ご盛会を祈ります。

新制高校

北方 龍一（新高30）

山・スキー・ゴルフは無理ですが相変わらず県の太陽光相談指導員として県下をコンサルで出張しています。やはり勉強の毎日です。79才になりました。

平井 吉夫（新高32）

皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

竹原 佑爾（新高33）

創部90周年お喜び申し上げます。今後の更なる発展をお祈り申し上げます。

永島 孝男（新高37）

東京で元気に暮らしております。

佐野 方則（新高41）

腰の具合が悪くなったので、リタイヤ後、数年続けていた海外トレッキングあきらめて、国内外を観光やハイキングなどで、うろついています。

坂田 茂樹 (新高42)

甲南高校山岳部OBです。90周年記念式典おめでとうございます。

瀧原 順 (新高42)

卒業後、ご無礼ご無沙汰しておりますが、今回は同期 坂田 君の誘いもあり参加致します。

福田 裕久 (新高45)

大学の山岳部には入部しておりませんので申し訳ありませんが欠席させていただきます。

白川 浩平 (新高H2)

事務所を高知市内に移転し、平日は一人住まいの単身赴任生活を送っております。高知へお越しの際には是非お声をおかけ下さい

大 学

砂川 彰雄 (大32経)

山岳会90才 小生80才。元気にこの日を迎えられるのは喜ばしいことです。

雨宮 宏光 (大33経)

90周年行事を準備いただいた皆さまありがとうございます。

麻島 重彦 (大33経)

何時もご案内を頂き感謝いたします。80歳 卒寿 卒の喜び 人生はあっという間、流転の苦しみに限りなく、やむことなし。一切のものを総て生きるものは必ず滅し・・・とあります。今この時 先を明るく がんばろう！と

鈴木 頼正 (大33経)

90周年式典のご準備大変お世話おかけします。今後の山岳会発展を心からお祈りします。

田辺 潤 (大34経)

ツアーでドイツ ロマンティック街道 約10日間の旅に参加し帰ってきたばかりです。ツアーですからドイツ語をしゃべる必要もなく、こんな楽な旅行をしたのは初めてです。賀茶

鳥居 威男 (大35経)

体力が落ちプールで鍛える毎日です。年齢には負けず。

越田 和男 (大36 理)

もっぱら里山歩きです。

伊藤 久三郎 (大36経)

毎日病院通いをしています。皆様によりしくお伝え下さい。

廣瀬 健三 (大36経)

世話人の方々何時もお世話になります。お蔭さまで元気です。

藤安 賢一 (大36経)

身体不自由になっていますが、何とか出席したいと思います。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

牧野 宏 (大36経)

記念パーティで皆様におめにかかれる事を楽しみにしています。15才のホームページ閲覧は日々の楽しみの1つです。

二谷 和成 (大38経)

月1〜2階近郊の山歩きをしています。年々体力の衰えを実感しています。

福田 信三 (大39理)

人並みに年令を加えております。盛会をお祈りいたします。

武田 雄三 (大39経)

お世話役ご苦労様です。会員諸兄姉との再会を楽しみにしております。

森本 全彦 (大39法)

昨年3月乗鞍に行った時、体力の限界を知り山スキーは止め普通の老人になりました。90周年式典盛会になりますように。

井本 洋 (大40理)

毎朝一番に家庭菜園に行くのを楽しみにしています。丁寧に手入れすると確実に反応してく

れるのです。無肥料・無農薬【借りている農園の方針】の野菜に満足しています。

鶴木 洋（大40文）

入院して1年になりますが、お蔭さまで何とか生き延びております。山岳部で身につけたしぶとさのおかげでしょうか。次女より

伊丹 徳行（大40法）

幹事さんご苦労様です。警察庁発表の平成26年度山の遭難の60.2%が50才以上とのこと気をつけましょう。現在変わった山行きをしていますが一度遭難しかけた事もあります。完登すれば山嶽寮に報告しないと思いますがもう少しかかりそうです。

柏 敏明（大41経）

準備万端ご苦労様です。何もお手伝い出来ず申し訳ありません。90周年に相応しい記念事業になる事を祈念しています。この素晴らしい会に属し良き先輩・同輩・後輩に恵まれ楽しい人生を送る事が出来たのを本当に有難く思っています。改めて会員諸兄に御礼申し上げ、今後とも宜しくお願い致します。

井上 徹（大41営）

今春、発売を始めたサントリーのサプリメント『ロコモア』は脚の筋肉を活性化させる効果があるようで、飲み始めて1ヵ月程度で効果を感じる事が出来、天城登山を楽に出来るようになりました。

森岡 宏光（大43理）

H27年9/14日～15日にかけて富士山山中湖近くの鐘山苑にてS43年卒4名【國分・頼富・佐崎・森岡】で親睦会を開催する。翌日は富士山新5合目にて部歌「山の歌」を斉唱する。

國分 廣昭（大44経）

元気にやっています。よろしくお願い致します。

赤田 正和（大44理）

社有林担当として山林購入に奔走中。いい山あ

れば紹介下さい。宮崎県日向市 ひよつとこ祭りを見てきました。愉快的な祭りです。芦屋竹園で甲木会に参加しました。甲南出身の木材業者の集まりです。

石原 浩二（大44理）

時々山に登っています。

南里 章二（大45理）

相変わらず文化センターでの講座に忙しく走り回っています。今夏は昨年に続いて、インドネシアに出かけ、その後シチリアへ出かける予定です。8月の会合には出席できませんが何卒宜しくお願いします。

矢吹 操（大45理）

いつもいつも連絡ありがとうございます。仕事や介護があつて、なかなか時間がとれません。元気でおります。ご出席の皆様によろしくお伝えください。

井上 知三（大48文）

時々、近郊の山歩きを松下さんに無理を言つて付き合ってもらつております。90周年の記念式典が盛会になつて普段お会いできない方々と美酒を飲むのを楽しみにしております。

平井 幹男（大50文）

当日は盛会になり、久しぶりに会う方々と山の話や近況を語り合つて楽しい一時を過ごせる様祈っています。

高橋 けいこ（大50文）

いつもありがとうございます。山嶽寮の編集も本当に大変ですのに、ありがとうございます。式典が盛況になる事を祈っております。

中澤 章浩（大51文）

90周年に当たり何もお手伝いできず申し訳ありません。当日は小生の一番忙しい日【例祭】を迎えるので出席できません。ご盛会をお祈り申し上げます。

村田 信一（大50経）

15年にわたる介護が一段落し、実家の整理と売却の準備中です。古道具も売り、ピッケル1本5,000円でした。山は眺めたり歌ったりすることが多くなりました。

早川 栄二（大50経）

米国【テトロイト】在住の為失礼させていただきます。創部90周年おめでとうございます。皆様に宜しくお伝えください。

西村 清（大51経）

山歩きからは遠のいておりますが近年は各地の城跡（城址）廻りをしています。各城址にて歴史に思いを馳せるときが、至福の時であります。

松本 好博（大52法）

ミャンマーに旅行の予定です。ご盛会を祈っています。1000年の歴史を目指しましょう。いつも案内ありがとうございます。

松下 哲夫（大52理）

この夏の暑さで気力がなくなっていますが、9月にかけて気力向上中です。

大森 雅宏（大53文）

この夏60歳になりました。学生時代には想像もなかった天文学的な年齢です。健康に問題がないうちは、仕事をもう少し続けます。体が動くうちは山にも行きたいですね。併せて老後に向けたソフトランディングを考えなくては。

鳥井 陽子（大54文）

お世話になっております。母が入院中なので、容体によっては当日キャンセルさせて頂くかも知れません。その場合は連絡させていただきます。よろしくお願い致します。

住友 健時（大55法）

申し訳ございませんが帰国予定がありませんので欠席致します。元気にしておりますので皆様によりしくお伝えください。住友 和子

山本 恵昭（大56理）

ポツポツと山登りをやっています。

川野 幸彦（大56理）

皆様お元気ですか。私も何とか元気で過ごしています。先日、同期の今井が亡くなりました。昔から山本恵昭と“3人で1セット”のような感じでした。淋しい限りです。近く「今井君を偲ぶ会」を行う予定です。記念式典・懇親会には出席します。この会には今井も楽しみにしていました。

西岡 進（大57理）

55才にて2度目のリストラ、人生前向きに考え、行動したお蔭で市役所のシルバー雇用採用されました。定年まで頑張れそうです。

青木 雅夫（大57経）

毎々ご案内ありがとうございます。

八木 健（大58経）

創部90周年。改めて諸先輩方のご功績に感謝申し上げます。現在部員がいないのは残念ですが、いつか同じ夢を持った学生が現れる事を信じています。当日午後から参加させて戴きます。

西名 俊英（大61理）

いつもご案内ありがとうございます。1月に義父が亡くなり、その後、実の父も入院。何とか回復しましたが、入退院を繰り返し心配な毎日です。そんな中でも娘たちを海水浴・キャンプへ連れて忙しいです。

松成 健（大H8文）

体重が80Kgオーバーで90Kgに近づき、会社から指導が入っていますが意志薄弱につき、まったく痩せられません。最近山形の月山を登山しましたが、大雨で視界も悪く、あまり楽しめませんでした。

池内 友宏（大 理）

ご無沙汰しております。休みが取れれば、10/10行かせて頂きます。昨シーズンより家族

でスノーボードを始めました。今シーズンも三
賀日に行く予定をしております。教えてほしい
と思います。当日はお礼を言いに行きます。

森本 寛之（大H19理工）

現在タイに赴任中、10月に帰国予定がありま
せん。父親より

谷 勇輝（大H20理工）

いつもいつもご案内ありがとうございます。仕
事が休みであれば友人と参加させていただき
ます。

ご遺族

本田 依子 様

私にまでご案内ありがとうございます。90
年！！皆様の素晴らしい結びつきの表れです
ね。おめでとうございます。心より皆様のご健勝

とお幸せを祈っております。盛会となりますよう
に。

横山 嘉壽子 様

ご案内ありがとうございました。元気に致してお
ります。山岳部の創部90周年おめでとうございます。
皆様のご活躍をお祈り致しております。

樋口 雅子 様

この度はご案内をいただきまして本当にありが
とうございました。返信が遅くなりまして大変申し
訳ございませんでした。せっかくの90周年の式
典でございますのに、当日免許【教員】講習が
入っておりまして、日程を変えられず参加でき
なくて非常に残念に思っております。長男も学
校の為申し訳ありません。どうぞくれぐれも皆様
によりしくお伝えくださいますようお願い申し上
げます。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

総会・慰霊祭

名誉会員

平井 一正(名誉会員)

4月23日はあいにくJAC 京都支部の30周年記
念式典が比叡山であり残念ながら欠席します。
諸兄姉に何卒よろしくお伝え下さい。

特別会員

鈴木 敬吾（特別会員）

当日所用があり欠席します。昨年10月に古希
を迎えました。元気でいます。

旧制高校

赤松 二郎（旧14理）

近年歩行が困難になりスピードは常人の倍時
間がかかります。杖を手放せないのと歩行機
（車付）にすがってよたよたとエレベーターなど
は直ぐ場所をあけてくれます。神さん親分の操
縦にまかせております。山は写真のみですが
山男も嫁さんの後を追うのに汗をかいております。
年に9回芸術文化センターの定期演奏会に出
かけます。

鷺尾 顕（旧15文）

転宅して住所が変わりましたのでお知らせ申し
上げます。

小林 誠 (旧17理)

満94才この頃は歩行困難になり専ら室内で歩行練習をしています。

伊藤 長次郎 (旧21理)

山行きはご無沙汰ですが、山岳部で鍛えたお蔭で90才になっても元気です。

伊藤 五介 (旧24文)

元気です。皆さんによろしく。

丸山 照夫 (旧25文)

高齢となり外出はほとんどできない状態です。ご通知は頂かなくても結構です。よろしく願いいたします。 家族

新制高校

北方 龍一 (新高30)

相変わらず兵庫県の仕事で再生可能エネルギーのコンサルタントとして県下一円に出張しています。

白川 浩平 (新高H2)

早いもので高知暮らしも丸9年が過ぎ、上の娘は春から高一、下の息子は中一です。私自身も高知市内へ事務所を移転して1年が経とうとしています。まだまだ日夜奮闘中ですが高知へお越しの際は皆様ぜひお声かけ下さい。

大 学

砂川 彰雄 (大32経)

山岳会90周年、幹事の皆さまご苦勞様でした。大変立派な会になり喜ばしい限りです。残念なことはやはり現役が居ないと言うことに就きますがやはり時代でしょうか？小生も81才になりましたがますます元気になっております。

木全 實 (大32経)

平成28年1月14日病没いたしました。お世話になり有難うございました。

鈴木 頼正 (大33経)

山岳会の出席者が少なくなり淋しい限りです。また年一回は駒王のような東京勢の方にも会える機会をつくって下さい。小生は今はゴルフを続けていますがもっと足を鍛えなければ慰霊祭にも出席できません。4月頃室堂から雄山に登ろうと思っています。

田辺 潤 (大34経)

年1回諸兄にお会いできることを大変楽しみにしております。

伊丹 弘忠 (大35経)

幹事様お世話になります。元気にしておりますが先約があり欠席します。皆様によろしく。

鳥居 威男 (大35経)

元気にしておりますが膝関節を痛めプールに通う日々を送っております。皆様によろしく。

越田 和男 (大36理)

昨年の慰霊祭では皆さんのペースについて行けずご迷惑をおかけしました。今回は早めに出発してなんとかレリーフまでたどり着きたいと存じます。よろしくお願いいたします。

伊藤 久三郎 (大36経)

総合失調症にかかり毎日病院通いを続けております。皆様によろしくお伝えください。

廣瀬 健三 (大36経)

何時もお役目ご苦勞様です。

藤安 賢一 (大36経)

日々介護ヘルパーのお世話になっておりますので、この時間帯には不在にすることができません残念ながら欠席します。

牧野 宏 (大36経)

「海ほたる」なんか神戸の海ならどこでも浮いていると偉そうに言ったのが発端で「海ほたる」を探す羽目になりました。夜光虫と混同していたのです。ネット検索し須磨水族園に問い合わせ、仕掛けを教わり日没後の西舞子の浜へ探索に

行きました。一度目は失敗、月夜を避けて3週間後、同じ仕掛けで5～6個ながら採取に成功。神秘的な光に感動し童心に返った夏でした。山の話でなくてすみません。

二谷 和成 (大38 経)

元気にしております。年々バランスも悪くなりハイキングもなだらかな低山を探して行ってます。

福田 信三 (大39 理)

先約のため欠席いたします。腰痛とのお付き合いが深まりリハビリ・ストレッチに励んでいます。目標は住吉～一軒茶屋～有馬です。盛会を御祈り致します。

武田 雄三 (大39 経)

お世話役の各位に感謝、会員の皆さんとお会い出来るのが楽しみです。

森本 全彦 (大39 法)

元気にやっております。近場の山に行っており、年相応の体力になってきました。大森さん山嶽寮編集ご苦労様でした。盛会でありますように

井本 洋 (大40 理)

健康で元気に生活しております。毎朝畑へ(徒歩10分くらい)行くのが唯一の楽しみです。残念ながら今は端境期で何も収穫物はありません。早くトマト・枝豆等々収穫したいものです。皆様によりきよくお伝え下さい。

鶴木 洋 (大40 文)

引き続き病院にて療養中です。皆様の活躍を応援しております。(娘より)

伊丹 德行 (大40 法)

幹事さんご苦労様です。今年の活動目標 ①数年前より登っている都道府県の低い山は現在1都3県が残っているがアタックしてみる。ただ1県はほぼ絶望的 ②阪神間で企画されているウォーキングに参加すること ③兵庫県内にある国宝や有形文化財を見て廻ること。今年も元気で頑張ります。

柏 敏明 (大41 経)

幹事の皆様には何かとお世話頂きありがとうございます。今年のスキーは残念ながら志賀高原のみの1回だけでした。4月は藤沢・5月は沖縄クルージング・6月は今年2回目のシンガポール・7月には焼岳と上半期の予定もだいぶ詰まって来ました。あとは体力の衰えに対処しなければと思っていますがなかなかです。

井上 徹 (大41 営)

最近めっきりと足腰がおとろえ OB 球を拾いに行くのも面倒になってきました。飛距離よりもボールをフェアウエーに運ぶことに重点をおいたゴルフに切り変えました。省エネゴルフに切りかえてからスコアが良くなりました。エイジシューターを目標にガンバっています。

森岡 宏光 (大43 理)

先日、H28年3月27日～28日にかけて、妻と二人で裏磐梯 五色沼を散策してきました。残雪の中磐梯山を正面に見ながら歩いてきました。天候にも恵まれ気分の良いコースです。紅葉の時期にまた来たいと思います。

國分 廣昭 (大44 経)

よろしくお願いいたします。

岸田 昌雄 (大44 文)

久しぶりのスキー大変楽しく過ごさせてもらいました。先輩方にもお会い出来、日ごろの失礼も何事も無かったように接していただき恐縮しております。井上君からも総会ぐらい出席する様にとの事でしたが私は3月～10月中位まで時間が取りにくいので申し訳ありません。

南里 章二 (大45 理)

お役目ご苦労様です。3月26日(土)の集まりは参加できません。当日、北海道へスキー旅行の予定です。

矢吹 操 (大45 理)

去年11月3年ぶりにフルマラソンに挑戦しました。普段全く練習できませんでしたが完走しま

した。お金で買う事が出来ない「達成感」を持つ事が出来ました。

井上 知三（大48文）

今年で満65才になり高齢者の仲間入りと同時に4月より年金を受け取る自分にア・・・こんな年令になったのかと少し寂しい気分です。まだ働けそうなので仕事は続けたいと思っています。また近郊の低山の山歩き、冬のスキーは頑張りたいと思います。皆さんお付き合いよろしく願い致します。

平井 幹男（大50文）

今年も雪見会に始まり雪見会と会員の皆様の便りを楽しみにしています。仕事の方も早くリタイヤしてのんびりと山に行きたいのですが、まだ少し先になりそうです。会員の皆様と色々な会で会える事を楽しみにしています。

高橋 けいこ（大50文）

90周年の行事の折には、皆様の山への熱い想いを拝聴させて頂きありがとうございました。翌日は同期のヒナコ(故 平井 由美子さん)の墓参りに女子隊有志で。また、この一月には同期の田口君(アメリカ在住)の一時帰国により又もや皆で大学集合。そして四月に山岳総会で再び皆様とお会いできるといきや、亡き夫の十七回忌法要と重なり当日は信州にいます。どうか盛会でありますようお祈りしております。

中澤 章浩（大50文）

去る2月、御母堂のご逝去に伴い帰省中の田口君と村田夫妻・高橋さんと小生の五人が大学のキャンパスに集い旧交を温めました。彼の前向きで逞しい様子は40年前と変わりありませんでした。

村田 信一（大50経）

いつも有難うございます。永い介護が終わり整理も一段落しそうです。あちこち出かけようかと考えているところです。

早川 榮二（大50経）

2017年まで米国駐在のため

西村 清（大51経）

未だに走り回っています。休みには孫(♂5才・♀1.5才)可愛くて可愛くて。なるべくOUTDOORで活躍できる子に育てたいと思っています。この子たちに幸ある事を願って。

渋谷 一正（大51営）

御盛会をお祈りします。当日、だいぶ以前から予定していたパーティーを4/23(土)自宅で行っています。帰りに寄って下さい。

大柳 香代子（大51法）

人生の仕切り直しの中、雑多な日々SNSの山の写真にいやされながら過ごしております。新雪の八方池・積雪の高峰山・黒斑山等でちょうど良い山遊びができました。

松本 好博（大52法）

先日久しぶりに八方尾根で春スキーを楽しんできました。現役1年?の春合宿終了後残ったエッセンとテントで名木山ゲレンデの下部に村上先輩とスキー個人合宿。私の初スキーでした。今は白馬は山岳スキーリゾートとやらで外国スキーヤー多し!ゲレンデの幕営はもちろん禁止ですわ。

松下 哲夫（大52理）

今年65歳となり「高齢者」の仲間入りとなっていました。がますます山歩きを楽しもうと思っています

住友 健時（大56法）

バリ滞在中にて出席できません。いつもお世話お掛けしています。元気になっていますので皆様によりしくお伝え下さい。住友和子

要 裕晶（大55営）

4月から東京勤務になりました。残念ながら欠席させていただきます。盛会を祈念しております。

山本 恵昭（大56理）

腰痛であんまり山へ行けず食べて飲んでメタボ

まっしぐらです。

川野 幸彦 (大56 理)

皆様お元気ですか。私も何かと元気で過ごしております。3月にはインドネシアに皆既日食を観に行ってきました。3分間足らずの大スペクタクルショーを楽しんできました。5月の連休は時間があれば後立に行こうと考えています。盛会をお祈りしております。皆様によろしくお伝えください。

八木 健 (大58 経)

90周年記念行事の際には何もお手伝い出来ず申し訳ありませんでした。短い時間でしたが楽しく又懐かしい時間を過ごすことができました。ご盛会を祈念申し上げます。皆様に宜しくお伝え下さい。

西名 俊英 (大61 理)

何時も案内をいただきありがとうございます。長女の中学受験に並走して、私も少し勉強し資格を1つ取れそうです。何かまだ成長できる実感と、集中力・持久力のなさを感じるこの頃です。ご盛会をお祈りします。

橋田 豊彦 (大H12 経)

失礼致しております。宜しく願い致します。
合掌

谷 勇輝 (大H20 理工)

総会・慰霊祭のご案内ありがとうございます。今年は勤務の都合で慰霊祭のみ参加させてもらいます。宜しく願いいたします。お会いできるのを楽しみにしております。

ご遺族

本田 依子 様

先日はありがとうございました。皆様 楽しく慰霊なさいますように。

乾 恵美子 様

この一年、山歩きをしておりませんので少々心配ですが無事行けることを願っております。

横山 嘉壽子 様

ご案内をいただきありがとうございます。今年は娘の夫が参加させていただくかもわかりません。よろしく願い致します。

樋口 雅子 様

連絡が遅くなってしまいまして大変申し訳ございません。私と 湧太で参加させていただきます。達也の方はクラブの試合が入っておりまして欠席させていただきます事をお詫び申し上げます。皆様にお会いできますのを楽しみにしております。

澤田 清子 様

ご連絡有難うございます。私方 年の為徒歩困難と存じますので欠席させていただきます。

報 告

定時総会

事務局 井上知三

日時 平成 28 年 4 月 23 日
場所 平生記念館
参加 雨宮宏光 / 田辺 潤 / 越田和男
牧野 宏 / 田中 孜 / 二谷和成
武田雄三 / 安井 正 / 伊丹徳行
柏 敏明 / 塩崎将美 / 浪川純吉
國分廣昭 / 石原浩二 / 南里章二
井上知三 / 平井幹男 / 松下哲夫
大森雅宏 / 山本恵昭
北方龍一 / 川村静治

議題・報告

1) 山嶽寮の編集委員の件

大森編集委員の辞退による後任及び発行の方法

毎年発行するが従来の方法ではなく、原稿を集める窓口を塩崎さんとし、多少金銭的に費用が掛かるが外部業者で編集・校正等を依頼して発行。

2) ホームページについて

現ホームページは秋にサービスが終了、新しい契約に伴い、管理されてきた塩崎さんの申し出により若い方にとの提案があり若手の谷さんが快諾していただきました。

3) 秋の集会について

昨年は90周年記念式典があり集会はなかったのですが今年は開催する場合

・何処で開催するか・例年の駒王か？・久しぶりに乗鞍 鈴蘭か？については担当の渋谷さんに一任することになりました。後日、案内葉書を送付いたします。

4) 山岳部・山岳会の今後について

山岳部は現在も休部状態です。

・対策として新入部員用に奨学金のようなものを設けて部員に対して資金援助をしてはどうか？

・山岳会も主に参加されている方が60才以上の方々、このまま若手の参加がなければ山岳部と同じようにに衰退の一途をたどるのではないかな？

・会員同士の声かけ運動で連絡をして一人でも多くの方々を何らかの行事に参加を促すようにする。

などの意見が出ました。

5) 副会長について

現副会長 安井さんから辞退の申し出があり、話し合いの結果 関東に一人ということに決まりました。

6) 会計報告について

別表の通り報告があり承認されました。

会員の皆様 何かとご意見等あるかと思いますが、今後の秋の集会・総会への皆様の多数の参加を期待いたします。

慰 霊 祭

平成 28 年 4 月 24 日

天気予報より良い天氣に恵まれ慰霊祭を実施できました。

昨年はルートを変更し城山から登りましたが少し距離が長く時間が掛かり不評でした。

今回は、従来のルート(高座の滝～高座谷)に戻し1時間30分程でレリーフに到着しました。

昼食後、黙祷、部歌合唱し現地にて解散しました。

ご参加者 (敬称略)

越田、二谷、村上、浪川、國分、石原、南里、井上、平井(会長)、松下
大森、鳥井、山本、川村、樋口(2 名) 16名

慰霊祭担当 松下哲夫



ホームページから

山 行 と 集 い

平成27年4月～平成28年3月 （写真の一部に省略したものがあります）

ヨタヨタの慰霊祭 越田和男 平成27年 4月26日

晴天に恵まれいい山歩きが出来たといいたところが、バテバテで遅れて皆さんにご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。今回初めて家内のサポート付きで臨みましたが、甲南レリーフまでがこんなに遠く感じたのは初めてです。歩きながら、慰霊祭参加ももうこれが最後かもと思った次第ですが、帰途の車中で、考え直し、次回は一行より一時間早く出発すればよいのではと思い直しています。

それにしても、最近訪問の度に、レリーフ一帯の岩盤の劣化が激しく感ぜられ、いつまでもつのか不安になりますね。芦屋でのビール一杯が果たせず残念でしたが、帰りはスムーズで車内で缶ビールにありつき、7時には横浜の自宅に戻れました。まずは参加の各位にお詫びと御礼まで。



ありがとうございました 石川洋子 4月28日

初めてこの慰霊祭に家族で、参加させていただいた牧野の娘、石川です。

小学2年生、4年生男子づれでしたので、なにか

とご迷惑、そして皆様のお力添えをいただき無事、慰霊祭参加することができました。とてもよい経験になりました。ありがとうございました。山の中で部歌をいっしょに歌わせていただき、なにか感じいるものがありました。またの参加をたのしみにしております。

うちは、保久良山のすぐ下に住んでいるのですが毎年集中豪雨による土砂くずれなど、六甲山まだなにもしりませんが、いろいろこれから悩みの多い季節です。つぎは、6月に家族で有馬いきを予定しております。

近江の山 kannroku 5月 5日

5月2日再度高島トレイル マキノ高原(200m)～赤坂山(823m)～三国山(876m)に
マキノ高原7:30出～17:30マキノ高原着

4月12日来た時とところどころに雪が残っていたが、今回は殆ど無く、イワカガミ、トクワカソウの山野草を見もつての山歩き。三国山に10時半迄に行けたら敦賀野坂岳(913m)まで行こうと張り切っていたが、三国山には10時40分着。この時点で野坂岳行きを諦める。普通ここ三国山から野坂岳まで健脚の人で5時間程かかる見たい。素晴らしきブナ林の新緑を見て帰るか、2時間程敦賀寄りを散策したが、ブッシュこぎをしながら10数年前に行った白山笈ヶ岳の時を思い出した。4月の時は黒河(くろこ)林道経由で降りたが、今回は登ってきた赤坂山経由で降りる。

鹿島槍ヶ岳東尾根 山本恵昭 5月 6日

1年先輩である藪内さんが、冬の鹿島槍で亡くな

られて30年。大森さんと川野との3人で鹿島槍東尾根を登って追悼登山に行ってきました。

5月2日 快晴。大谷原6:45発。林道の最初のS字を越えたあたりから右の尾根に踏跡を辿る。今年は雪が多いとのことであったが、この陽気で融雪が進みかなり積雪が少ない。藪漕ぎと暑さで体力を消耗する。立ち止まっては、藪内さんと3月合宿で登った荒沢奥壁南稜を目で辿る。14:00二の沢頭を整地してテント設営。他に3パーティが泊。夕食後はちょっと飲み過ぎ。

3日 晴れ。6:30発。急な雪稜雪壁を登り第一岩峰下へ。本来のルートは雪壁ルンゼのはずであるが、雪が全く無くガレた岩場になっている。先行パーティの時間待ちや落石も嫌なので、左の谷から大きく巻いて第二岩峰下へ突き上げる。第二岩峰は完全な岩登りで、ロープで確保して登る。チムニー状の登りが変則的で嫌らしい。第二岩峰を越えるとききれいな雪稜を辿って、鹿島槍ヶ岳北峰に12:30着。藪内さん達の遺体が見つかった黒部側の谷に向かって黙祷をする。稜線上はほとんど夏道が出ている。南峰で川野が信州大山岳部パーティに話しかける。彼らの膨れ上がった巨大なザックを見て大学山岳部らしい懐かしさを感じる。冷池山荘テント場に16:00。

4日 夜半から時々小雨模様。6:00発。赤岩尾根上部のトラバースを終え少し降りた所から、西沢へ下る。雪も安定していて快適。途中からはシリセードであつという間に西沢出合の赤岩尾根登り口に到着8:30。ただし、オーバーズボンには破れ、パンツびしょ濡れ。フキノトウ、コゴミなど、山菜採りをしながらのんびり大谷原へ9:30。大町薬師の湯で汗を流し、たいした渋滞にもあわず神戸へ。

藪内さんの搜索の時には南峰北峰のコルからスタスタと下った黒部側の斜面が、30年経った今はとても急なものに見えました。30年という時間の長さを感じました。この3人のメンバーでしんどい雪山

に行くのも小窓尾根以来、みんなの腹回りも1ランクアップ。この数年間も長いかもしれませんね。

飯田 進 5月 6日

小生 鹿島槍東尾根に登ったのは、1960年5月3日でした。天気晴れ。第二岩峰はザイルをつけて、そのあとの頂上に出るまでの稜線も結構怖かった。今は鹿島槍は、遥か仰ぎ見る山、です。貴兄たち結構なお年でしょ。よくやるね。

山本恵昭 5月 8日

3人合わせて、171歳になるかと。気持ち的には30年前と同じで(成長せず?)チームワークは良いのですが、体力がついてきません。私は(たぶん3人とも)、今日になってもあつちこつち筋肉痛で痛いです。

ハイキング 塩崎将美 5月 6日

元気なカンさんや大森君に刺激され山を歩いてきました。恥ずかしながら往復1時間の歩きと頂上で30分の昼飯でした。笛吹山997m、大山南壁が真正面、途中で見かけたイワカガミ、烏ヶ山。

ウズベキスタン短訪 越田和男 5月30日

この連休は米山バブさんをリーダーに一行4名で8日間ウズベキスタンへ行って来ました。バブさん撮影の写真が「米山悦朗写真集」にアップされましたのでご覧ください。成田から直行ノンストップのウズベキスタン航空の機窓はバブさんあまり興味なかったようですが、アルタイ山脈や天山山脈が望めて結構でした。右側の窓席がお勧めです。

サマルカンドの西方300Km程のところの2000級のヌラタ山脈(東西200km位)というのがあり、この北麓の三つの谷に入り、それぞれの最奥の集落(アスラフ、センチャブ、ハイヤット)の民宿に泊まり、花や動物を追っかける、というのがメインテーマで

す。ポピーの群落は開花度がやや期待を下回ったとはいえ、野生のマルコポーロ・シープの群れに出会えたりで、それなりの収穫はありました。

まだツアーの観光客の行かない素朴なタジク族の住む山里での滞在も興味深いものでした。通訳兼ガイドのロシア人も幾分不慣れながらもよくやってくれ、旅程変更なども快く受けてくれたのも良かったです。特記すべきは冷えた地ビールの美味さ。

ただしトイレ事情はいまひとつで、家内には不評。4人そろっての下痢という有難くないハプニングもありましたが大事には至らず。ダニに咬まれて痒い思いをしたのはバブさんと私の男性二人のみ。

帰国日の朝、予定にはなかったのですが、タシケントから半日かけて、北東方向の山麓をドライブして、西天山山脈の最西端の山々を眺めたのはいいオマケとなりました。写真の雪山はチムガン峰3309mで、大山の北面みたいな感じ。多くのクライマーが訪れるとのこと。積雪期にはスキー場も多く、好きな言葉ではありませんが、いわゆるリゾート開発のターゲットになっている模様。

雨のスズコキャンプ 山本恵昭 6月7日

6月6日(土)天気予報は晴れに変わったはずなのに、10時に大段が平につくと雨。平井さん、松下さん、大森さんとしばらく車の中で様子を見ていても、やはり雨。雨男は誰でしょう。

仕方が無いので、雨具を着て出発し、神戸大ヒュッテ周辺でスズコを採る。今年は太いものが多いような感じ。いつもどおり虫入りもそこそそ有り。1時間ほど蕪徘徊して下山。林道で山椒の葉を収穫し、いつもの場所へ。

すでに武田さんが到着されている。みんなでスズコの皮むき。平井さんが鶏肉ニンニク炒めとスズコのスパゲッティを、武田さんがやまめの塩焼きを

作ってくださる。そうこうする内、スズコもゆがけて、マヨネーズ和え、ワサビ醤油和え、山椒ポン酢和えと色々バリエーション。ミツバのおひたし、タラノメ・スズコの天婦羅。最後はスズコ味噌鍋。お酒を飲みながら、なぜか会話が議論調に。なんやかんやで、ワイワイと楽しく夜も更け、皆さん無事にテントや車に入って就寝。

7日(日)朝食に雑炊を食べて、解散。

ご参加の皆様、天候には恵まれませんでした、楽しく過ごさせていただきました。有難うございました。

奥飛驒 塩崎将美 6月9日

今年も新緑の平湯温泉に15名が集まりました



奥の細道 飯田進 6月30日

先般バブサンと二人で奥の細道を中尊寺、松島立石寺 象潟 酒田 鶴岡 村上 と旅してきました。

早朝6時に発って、湾岸、首都高、常磐道と走りました。福島に入ると妙な看板が出てきました。2μsv、どうやら放射能の数量らしい。ちょこちょこ出ています。気を付けて早く立ち去れ、との警告らしい。スピードを上げて通過する。おかげさまで一関に早く着いた。中尊寺はすぐ近くである。中尊寺は藤原の栄華、義経の最後といろいろと言われが

あるが、来てみればここは芭蕉一色、というところ。芭蕉芭蕉である。光堂はコンクリートの建物の中に、嚴重に保管されていて、見たければ800円払え、ときた。五月雨が降り残そうが、残さまいが、ひかり堂は永久に不滅であります。そこそこ見物して、松島へ。途中今夜の宿、ビジネスホテルへチェックしに寄る。松島と石巻の中間、鄙びた矢本という駅近くにあり、やけに広い駐車場とザビジネスホテル、といった感じの二階建てのホテルで、小さな窓がずっとならんでいて、チェックの後松島へ。車で旅するのに、詳細な道路地図を持たず、ドライブインの無料高速道路図のみでは、カーナビが唯一の頼り。ところがこのカーナビ時々謀反を起こるので、あんまり頼りにならない。

なんか山の中をずーっと走っている。あー松島や松島や、どこまで行っても山の中。少し不安になったころ、海が見えた。着いたところが、瑞巖寺。前の遊覧船船着き場から、とくと松島湾を眺める。樹木に覆われたみ緑濃い島々が、紺碧の海に浮いている。松島や、鶴などいらぬ、美しさ。さすが松島。日も暮れてきたので、宿に帰る。

ホテルに帰って驚いた。だだっ広い駐車場が満タンになっていた。宮城、栃木、千葉、相模原、までは大分のナンバーまで。作業着を着た方々がてんでにビニール袋を下げて、ホテルに入っていく。うわさに聞いた、仙台は出稼ぎで賑わっている、は本当だった。次は立石寺。

東北道、山形道と走って、山寺立石寺へ。巨岩が露出した急峻な山腹に1100段の階段がついており。100段登ってお堂、200段登ってまたお堂。そして1100段登って本尊に出会えるようになっていた。まったく草臥れるお寺である。立石寺には蝉は鳴いてなかった。蝉は小生の耳の中で鳴いていた。耳鳴りが治らないので困っています。

ここから象潟へ。象潟は芭蕉が訪ねた時から、名所の海岸線は隆起によって変わってしまっ、日

本海の何処にでもある海岸線になっていた。象潟からは海岸線を通して酒田、鶴岡へ。鶴岡ではクラゲの水族館を見物。よくこれだけ、と思われるくらい、沢山のクラゲが泳いでいた。数ミリから触角を伸ばしたら、2,3mはあろうクラゲまで。バブサンは夢中になって撮っていた。鶴岡に行かれたら是非にも寄られたし。この日鶴岡に泊まる。鶴岡ワシントンホテル。駅の真ん前。夕食は表。適当に店を選んで、食べたのは、イワガキ、鰯の塩焼き、子エビのフライとエトセトラ。立石寺の階段がふくらはぎを直撃。夜はよく眠れました。

ここからさき村上で、天井から千匹の鮭が吊るされ、一年かけて熟成される、名物塩鮭をお土産に買って、柏崎のはずれのはずれ、角出村の紙漉の名人宅に。この日わらぶきの宿に泊まる。早朝6時出立。東京へ。

ああしんどかった。

苗場山に行ってきました 柏 敏明 7月30日

苗場山(2145m)に登ってきました。日本最高積雪地点(7.85m)で有名な飯山線森宮野原駅で、25日2時過ぎに東京組と大阪組が合流、車で秋山郷切明温泉雄川閣へ、岩魚の骨酒で久しぶりの出合いが大いに盛り上がりしました。

26日、車で登山口の3合目小赤沢駐車場迄行き、8時20分出発、鎖場なども有り、結構、厳しい登山道を4ピッチ。12時に頂上着。小生は何時も通り20分遅れで無事到着。昼食後、東京組は神楽ヶ峰経由和田小屋へ、タクシーで越後湯沢へ出て帰京。大阪組は元のコースを辿って、結束温泉かたくりの宿へ。ここは小学校を改造したコジャレた女性に人気がありそうな宿でした。

翌27日は鳥甲山の予定でしたが、苗場山で体力を消耗しつくし断念。飯山で有名なうなぎ屋「本多」で、少し辛めのタレのうなぎ重を平らげ、やっと元氣回復。後は、野沢のロープウェイに乗って山頂

へ、木陰のハンモックで涼んで懐かしの中屋敷へ。量を少なくと言うのを忘れたため、例によって沢山の料理の数。残すのは申し訳ないと必死に挑戦するも、食べきれず。体力も、食欲も落ちたなあと実感しました。苗場山の山頂は原生林に囲まれた広大な高層湿原。多くの池塘があり、木道も完備しており、高山植物を楽しむ事が出来ました。小さいながらも雪渓も残っており、スキーと重なる苗場山の印象とは違った素晴らしい山でした。

参加の皆さんにはお世話になり、有り難うございました。参加者は写真からご推察下さい。



笠谷から笠が岳 山本恵昭 8月10日

(本誌「山行と紀行」に掲載しています)

劔岳登山 川野幸彦 9月25日

9/11(金)～12(土)で会社の同僚5人と劔岳(室堂⇄別山尾根)に登ってきました。初日は雨の入山でした。雨の中を半日も歩いたのは数十年ぶりでした。参りました。翌日は快晴の中、劔岳の頂上へ。頂上は4年前の5月以来です。福永さん・薮内さん・今井に黙祷をしました。

久しぶりの劔岳でしたが、ほとんどの登山者がヘルメット着用でした。被っていないのは我々だけでした。以前は、皆無でしたが・・・。御嶽の火山の影響でしょうか。今回は、トレーニング不足でハード

でした。回復するのに1週間ほどかかりました。歳ですね。(後略)

黒部東沢谷から水晶岳赤牛岳

山本恵昭 9月25日

この連休で黒部上の廊下へ行こうというのが第1案でした。しかし、ここしばらく異常に気温が低く、泳ぎ中心の沢は断念。その代替として浮かび上がったのが東沢谷、せつかくなのでめったに行く機会のない水晶岳、赤牛岳も追加して5日間の山行となりました。

19日 2:30に扇沢に到着するがすでに上の駐車場は満車で、下の駐車場に止めて仮眠。7:00のトロリーバスに乗って黒部ダムへ。湖畔の登山道を辿り、12:00の平の渡し船に乗る。再び湖畔の登山道を行くがアップダウンが激しくしんどい。奥黒部ヒュッテのテント場に15:30着。テントを張り、東沢と黒部本流の合流点で釣りをするが反応なし。山岳警備隊のお兄さんとしばし談笑。

20日 小屋に届けを出して、7:30発。小屋の取水管を辿り東沢へ降りる。すぐに膝上くらいの渡渉で右岸へ渡り、しばらく進むと行き詰まる。水流も激しいので高巻いて進む。

何度か高巻きを繰り返して下部の廊下地帯を越えると、兩岸が開けて谷が明るくなる。早速、竿を出すと20cmほどのイワナが釣れるが、まだまだ小さいのでリリース。右に左にルートを探り、渡渉を繰り返して高度を上げていくと、1740m付近で絶好の釣りポイントに遭遇し、約1時間の道草となる。最初はミミズで25cmを1尾。続きが出ないので、毛鉤にかえて試みるが一回のアタックで反応がなくなる。それならとザックや体に飛んでくる黒っぽいアブを捕まえて餌にすると効果抜群。30cm弱を3尾追加し、今夜の食料に。

1940m付近に先行パーティがテント設営している。さらに遡ると豊かな森が沢筋まで迫り、適当なテン

トサイトがない。2010m付近にかろうじて砂地を見つけ、今宵のテント場とする16:30。すぐ横に湧き水があり、その小さな流れに産卵準備中のイワナのカップルがいて心を癒してくれる。焚火を試みるが、流木も僅かしかなく湿っていてなかなか本格的に燃え盛らない。かろうじてお湯を沸かし岩魚を2尾だけ焼くが、意気消沈消灯。



21日 7:00発、朝から水が冷たいが、登れば登るほど視界が開けて気分は晴れやかに。途中の休憩で焚火をおこし、昨日の残りのイワナ2尾を焼いて贅沢な時間を過ごす。

2300m付近から東沢乗越へ向かう沢から離れて、水晶岳東面カールへ続く右の沢に入る。手付かずの黒々とした岩の累積と紅葉のコントラストが美しい。荒々しい水晶岳の岩峰群に囲まれながら、雄大な景色に圧倒される。最後の流れで4リットルの水を汲み、ガレ場と草付きをつないで水晶岳と温泉沢の頭との間の登山道にたどり着く14:30。水晶岳を空身で往復し、温泉沢の頭を越えた辺りで泊16:00。

22日 朝食を簡単に済ませ、6:00発。左には朝日に輝く薬師岳、右にはまだ黒い裏銀座の山々、その真ん中を赤牛岳への道が続く。8:00赤牛岳山頂に到着。前には立山、剣岳、黒部湖、遥か彼方に白馬岳。振り返ると黒部五郎岳、笠が岳、槍ヶ岳。どちらを向いても山また山である。まさに北アルプ

スど真ん中。

いよいよ読売新道の下りである。上部は石庭のような尾根に紅葉が散りばめられて美しい。コケモモとクロマメノキの果実を少々頂いてビタミン補給。樹林帯に入ると、噂通り、道はぬかるみ岩や木の根は滑りやすく苦労する。最後はドンと下って、13:00奥黒部ヒュッテに到着。まだ時間も早いので本日は平の小屋泊まりということにして、最終17:20の渡し船を目指す。

渡船場について1時間ほど待ち時間があつたので、栈橋から毛鉤を垂れる。突然ひったくるような当たりがあり、釣り糸がギューンと唸る。少しは岸に寄せてきたと思っていると、パーンという音とともに釣り竿が折れて、大きな鱒は毛鉤とともに深み消えた。何とか応急処置をして、今度は慎重に毛鉤を水面近くに漂わせる。しばらくの静寂の後、突然波紋が出来たかと思うと鱒が毛鉤を追ってジャンプをした。そして、フィッシュオン！まるで釣り漫画の一場面のような。ゆっくりと岸に寄せ、最後は手掴みでゲット。40cm程のニジマスだった。鱒の先まで美しい。そうこうする内に船も着き、対岸の平の小屋へ泊まる。ニジマスの調理をお願いするが、断られる。仕方がないので、2枚に開き小屋前で塩焼きに。誰かの本に「釣り人と話すときには両手を縛れ」とあつたような。逃がした魚はデカイ。

23日 6:10発。10:00放水中の黒部ダムには虹がかかっている。10:35のトロリーバスで扇沢へ。大町温泉薬師の湯で垢を落とし、ひたすら神戸へ

立派な森に包まれた沢登りとイワナ釣り。快晴の中、北アルプスど真ん中、赤牛岳からの大展望。しんどかったけれど、とても変化に富んだすばらしい山行でした。特に、稜線まで抜けられるかどうか分からないまま入り込み、何とかルートを見つけ出すことが出来た水晶岳東面カールの雄大な空間は忘れられない光景となりました。また好きな場所が増えました。でも、また行こうと思っても、なかなか

か行けませんけどね。

今回もお付き合い頂き、大量のウイスキーを持ち上げてくださった大森さんに感謝。

四国剣山～三嶺縦走 kannroku 9月27日

2年前より娘婿と山に行くようになり、今年は私が行って見たかった四国剣山から三嶺の縦走に。

9月21日(月) 曇り 大津早立ちをして徳島見ノ越10時10分着 駐車場は満杯で少し離れた道路駐車。10時30分剣登山口出発。頂上昼過ぎ着。人でいっぱい、これから行く次郎笈の頂上はガスでかくれたり、現われたりの繰り返し。急いで昼食を食べて一気に120m程降り切る。頂上へ登るのと、トラバースするのと二手のルート。若い婿殿は頂上。年寄りにはトラバースへと。この二手合流点近くに水場がありここで各々2Lの水を補給する。一遍に荷が重くなったようで、今日の予定の白髪避難小屋は無理かもとよぎる。剣山⇒次郎笈⇒高知側へ降りたり、登ってくる人達が若干いるが、ここから三嶺には我等二人だけの旅となった。途中三嶺から来た二組の人と出会ったのみ。

丸石⇒丸石避難小屋に着いたのは、15時過ぎ。ここから白髪避難小屋まで3時間半見るとしたら日が暮れての行動となるので、断念して丸石避難小屋泊まりとする。この小屋には水場なし。先ほどの4Lで夕食、朝食は十分いける。我等の後から2人×2組+1人×1組=5人の人が来る。何もすることがないので互いに出身地や明日はどうするのかとか、諸々の話で過ごす。愛媛・岡山・大阪の人達で単独行の大阪の人だけが三嶺に行くとのことで、一緒のパーティに入れてくれと行って来たが、勝手に後から付いて来るのならOKと。今日の歩行時間休憩共約4時間45分

9月22日(火) 快晴 4時15分起き、5時15分ヘッドランプ点けて出発。(今日は下の名頃13時43分バスに乗って見ノ越の車回収が絶対) 睡眠十分

のお陰か昨日より体が軽く感じる。単独行の59歳の男性も一緒だったが途中で先に行ってくださいとの言。ちょうど1時間半程行ったところで反対側三嶺方面から来た人に出会う。昨日白髪避難小屋にはテント1人、小屋泊単独行3人との事。右側に女性的な三嶺の綺麗な姿が見える。単独行の方追いついてきて、水場に行ったらしいが、岩場の横断が怖くて汲めなかった由。まだ2L満杯であるので分けてあげる。

丸石避難小屋⇒高の瀬⇒白髪避難小屋⇒白髪分岐⇒カヤハゲ⇒三嶺⇒名頃バス停 白髪分岐で自転車を担いだ3人パーティの人達と遭遇。自転車は10kg～13kgの重量との事で高知側香美から来たとのこと。山屋出身らしい。

カヤハゲから三嶺頂上迄チョットヤバイ鎖場の最後の上り30分。10時20分着。30分程360°の展望を満喫して下山に。もう下りのみなので、道も迷わないと思い、車回収を婿殿にお願いして先行下山。私は三嶺ヒュッテ避難小屋を見て天然記念物ミヤマクマササ見たりしてゆっくり下山。この下山が一番しんどかった。今日の歩行時間休憩共約7時間10分(森本8時間10分)

12年前に登った剣山、5年前登った三嶺、やっと頂上がつながりました。今度は天狗塚の方に行ってみたいです。何回も行きたい稜線でした。



カニキノコキャンプ 山本恵昭 11月 9日

今年のカニキノコキャンプにご参加いただいたのは、平井さん、井上さん、大森さん、私、そしてキャンプ場で武田さん、計5名。

7日(土) 今年の森は何か変。暖かく乾燥し過ぎ。その影響か、古くてぼろぼろのナメコは沢山あるのですが、ちょうど良いのは少しだけ。ムキタケも少ない。まあ5人で食べるには十分ですが。いつもの冷凍カニ大箱は買わず、スーパーの冷凍カニを少々、鰯と豚の鍋で安上がり。1尾250円の鰯が結構旨かったです。それぞれお持ち頂いた各種お酒でほろ酔いに。やっぱり、香住鶴「ひやおろし」が合いますね。



8日(日) カニ大漁のようでしたが、6日の解禁直後のためか、競り値は高い目。でも、そのぶん上物でした。
次の週末は、下の娘と福井の丈競山で1泊の予定。そろそろ、雪山でしょうか。

カニキノコお礼 tani 11月12日

カニキノコ会、今年も参加することができず残念でした。

平井さん、井上さんお疲れのところ立派なカニと貴重なナメコを届けてくださり感謝感謝でございます。会に参加された皆様、本当に有り難うございました！来年こそ参加させて頂きますのでよろしくお願いいたします。
井上さん、先日90周年記念式典での写真、

有り難うございました。

丈競山 山本恵昭 11月16日

15日16日で、娘と福井の丈競山に行ってきました。

15日 午前中は越前かに祭りへ行くが、あまりに高いので手が出ず。午後から晴れの予報なのにいつまでも雨。仕方が無いので、4時前に雨具を着て青少年旅行村を出発。ロープが張ってある急登を終えると冠山。日も暮れてヘッドラン行動で浄法寺山を経て丈競山山頂避難小屋へ6時過ぎに到着。トイレもあり快適。鍋で暖まり、広々貸切ごろ寝。



16日 晴れ。扉を開けると朝日が小屋の中まで入り込む。山頂にあるだけあって展望は抜群。福井の街は雲海に覆われ、その向こうに日本海。反対側には白山。

昨日はこんな所を登って来たんだと確認しながら下山。禅の里の温泉に入って帰路へ。

なかなか立派で快適な小屋でした。日頃管理をされている丸岡山の会の皆さんに感謝します。

丈競山 大森 山本 12月29日

年末の休みに福井の裏山に遊びに来ました。貸切の避難小屋。快適です。



アルプスに登った 越田和男 12月31日

今年の登り納めは一寸背伸びしてアルプス登山！

良く歩くコースで、北鎌倉駅から建長寺一半僧坊一大平山一天園一獅子舞一鎌倉宮とたどる鎌倉アルプスの大縦走でした。最高峰の大平山は海拔159m。獅子舞の谷間に思いがけず残る紅葉が見事でした。最近地元では、「アルプス」というのをやめているとか、流石の見識か。

皆さん良いお年を！

雪見会 飯田 進 平成28年 1月 8日

雪見会 を 1月 23、24日 中心に行います。

参加される方、初日の食事と 帰られる日の食事記入の上15日までにご返事願います。尚同伴者おられる方、その旨お知らせください。

6、7日 初滑りに蓼科高原車山スキー場と2IN1に行ってきました。山には雪はありません。雪はスキー場の半分くらいに積もっていました。雪はコンコと降り積もるものではなく、こしらえるものであります。

雪見会のお礼 山本恵昭 1月26日

飯田様

いつも雪見会のお世話いただき有難うご

ざいます。3シーズンぶりのスキーでしたので、土曜日は、9時頃から最終16時過ぎにリフトが止まるまで、休憩無しのスキー三昧。昼食もゴンドラ内でパンをホットココアで流し込み、トイレに行く以外は滑り続けました。

日曜日は、大雪情報に朝から帰ろうかと迷いながらも、もうちょっと滑りたいなと11時頃まで新雪を楽しみました。半日券は1時まででしたので少しもったいないとも思いましたが、ちょっと早い目に出たおかげで渋滞にも合わずスムーズに帰ることが出来ました。

谷君へ

久しぶりに一緒に滑れて楽しかったですね。撮影してくれた動画を見れるようにしてもらえませんか。出来れば、明日の朝までに。仕事で使いたいと思っています。

雪見会の御礼 南井英弘 1月27日

雪見会に参加させていただき有難うございました。昨年は体調が勝れず一度も滑るチャンスが有りませんでした。お蔭さまで小雪でガスがかかって雪面は見えにくかったですが、80歳の体が「鐘のなる丘」でスキーを思い出して呉れました。翌日は少しレベル・アップした滑降が出きるかと楽しみにしていました。生憎の吹雪。お蔭さまで小谷温泉で吹雪の中、露天風呂を楽しみました。

お世話になった甲南山岳会の皆様、神戸大の皆様に御礼申し上げます。

観梅 塩崎将美 2月22日

保久良神社の梅林に集まり満開の梅を肴に一杯やりました。

参加者は藤安さん、田中さん、牧野さん、安井さん、井上君、大森君、牧野さんの娘さんご一家に私。少し肌寒かったが熱鬧で温まりました。

久しぶりの保久良神社、登りがこんなに急だったのか、現役の時とは軽々走ってたの??



保久良山梅見会 石川洋子 2月22日

年に1度皆様にお会いできることを家族一同楽しみにしています。保久良山は毎週登っていますが、皆様と一緒に熱燗を飲むと景色が変わって見えます。いいですね。子供たちが飽きないようI PADで太鼓の達人を遊ばしてくれてありがとうございます。帰ってから早速太鼓の達人のアプリのダウンロードする

ようせがまれました。

BY 牧野娘家族一同

スキージャンプ勝山 kannroku 3月6日

最上部リフト終点(1320m)から30分程の歩行で、法恩寺山(1356m)頂上に。福井の方も積雪が少なかつたらしい。

スキーは最上部から4km程の滑降を1回滑って終わり。法恩寺山から白山・荒島岳等が見れて満足しました。

(無題) 飯田 進 3月6日

kannrokuさんお元気そうですね。

学生時代、ノンキさん(伊藤久三郎氏)と京福電鉄に乗って、たしか勝山にある、小さなスキー場に行った記憶があります。ひょっとしたらそれが、スキージャンプ勝山かも。立派なスキー場みたいですね。それにしても今年は暖冬。蓼科連山には雪がありません。あるのはゲレンデの一部だけ。かわいそうなくらいです。今年はまだスキー納め、かなと思っています。



甲南山岳会ホームページが移転しました (平成28年9月)

新URL <http://konan1923.sakura.ne.jp/>

「お気に入り」の変更をお忘れなく

新管理人 谷 勇輝 (大H20理工)

スイス写真日記

塩崎将美（昭41経）

スイス 6月17日

スイスにきてます。天気悪く山がなかなか顔を出してくれません。今初めて日が照り山がみれました。ベルニナ山？



になりそうな予感です。静かな鄙びた町観光客も少なく朝の散歩で石畳の坂を上り家並みを抜けるとハイジの世界でした。

もう一つスイスで観光パノラマ列車に乗るより同じ路線を走る普通列車がオススメです。うるさい観光客もが居ませんし走る時間もほとんど変わりません、ただ乗り継ぎには時間がかかります。窓も開けられました。写真はCherからSamedanまで乗った普通列車で撮りました。

追加

グリムゼル峠越えのポストバスも良かったです。

Re: スイス 6月18日

朝食の時、宿の女主人にきいたところ piz Paul という事でした。

越田和男 6月18日

今サンモリッツ近辺滞在中ですね。もうベルニナ線に乗りましたか。

ベルニナ線の最高所駅オスピツィオで下車して、次のアルプ・グリュエンまで歩いたことがあります。線路の東側の丘に登ってベルニナ山群、その麓の牛の群れ、湖(ラゴ・ビヤンゴ)沿いの路線を走る赤い列車を眺めた壮観を思い出しました。

6月19日

当初は2連泊でベルニナ特急に乗り帰りに途中下車でハイキングを計画してたのですが余り欲張ってもと4連泊を2箇所にしエンガディン地方は諦めました。泊まったSamedanは今回のたびの一番の宿泊地



ハイキング 6月19日

昨日はメンリッヒェンからクライネシャイデックまで2

時間かけて歩きました。アイガー北壁を正面にメンヒ、
ユングフラウを眺めながらのハイキングは最高に良
かったです。天気良く、整備された道、咲き誇る花、
出会う人もパラパラ、静かな歩きに満足しました。

歩いてた時にははっきり見えていたTop of Europ
は高い金を払って上がったのに何も見えず、残念。



天気悪し 6月20日

シルトホルンとフィルストのハイキングを計画して
たのに連日雨です。しかたなく(嫁さんは喜んでまし
たが)昨日はBernの町歩きか今日はRothornへ蒸気
機関車に乗りに行きました。頂上はミズレで何も見え
ませんでしたが、其れでもこの汽車はお勧めです。
なんとか天気良くなって欲しいと願っています。

越田和男 6月21日

天気に恵まれず残念でしょうが、私も旅先で
は、雨なら町へ行ったり、鉄道に乗ったりして、
それはそれで楽しんでいます。もっとも、NZ南島
のアーサーズパスの山の宿では三連泊ずっと
雨、その時はどうしようもなかったですけど。

ブリエンツ・ロートホルン鉄道は霧シヨンのな
かでしたが良かったです。雨支度して半分を
歩いて下りました。そんなアホなことしてたの
は我々だけでしたけど。旅の後半きっと晴れる
でしょう。



6月21日

ただいま朝の6時前、曇り、5時からLIVE映像見て
ますが山の上は何処もガスがかかっています。今日は
移動日です。2000mのハイキング道に設置された回
収箱、日本とは発想がちがってる様です。



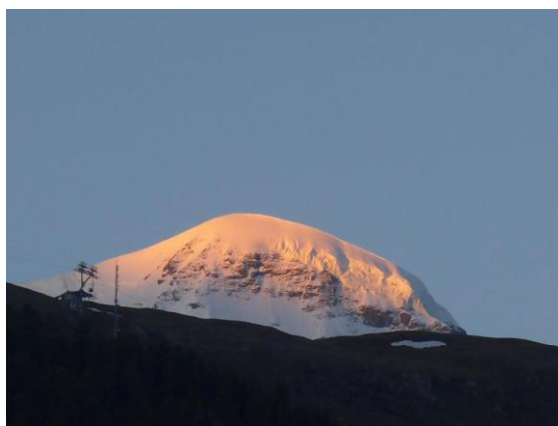
晴れました 6月22日

宿のベランダから



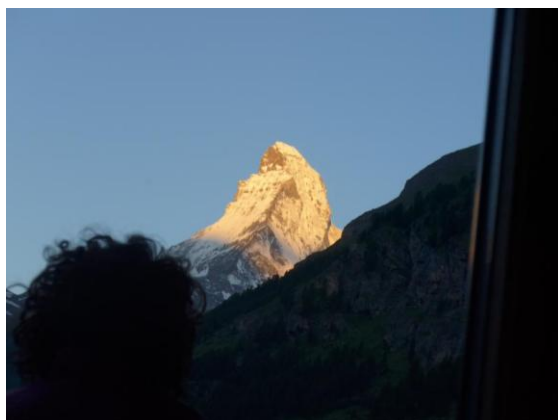
朝焼け 6月22日

掲示板に書き込みすると朝焼けが始まりました。ベランダで見とれました。北の外れの台所付きの安宿ですが拾い物でした。最後の一枚はベッドから写した写真です。今日は快晴です。



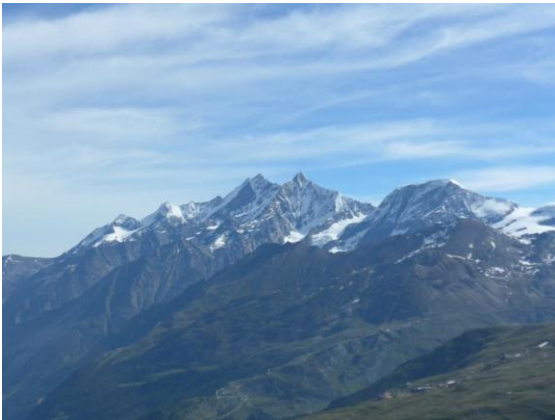
Zermatt 6月22日

またまた小雨の降り出したインターラーケンを8時の車で逃げ出しツェルマットへ、10時過ぎにツェルマットに着くと太陽が出てます。駅で荷物を預けゴルナーグラート鉄道に飛び乗りました。モンテローザの頂上はガスってますがリスカムから西はバッチリ、真白いブライトホルンが美しい、足元の氷河も素晴らしい。肝心のマッターホルンは頂上見えませんでした。リッフェルベルクまで2時間かけてノンビリ下りました。頂上で写した写真はカメラの操作ミスで全滅、残念でしたが満足な1日でした。



360度の展望 6月23日

マッターホルン・グレッシャー・パラダイスに上がってきました。快晴無風、シーズンにそう何度も無い様な天気でした。昨日見えなかったモンテローザ、スイス領の最高峰ドーム、勿論マッターホルン、東に見えるモンテローザの左奥の山はイタリアの山？北にはユングフラウ／メンヒ、時間を忘れて眺めてきました。昨日は震えましたが今日はダウンを着なくても寒くなかったです。帰りはフーリから1時間半のハイキングを楽しみました。



スキー 6月23日

夏でも滑ってます。嫁さん一緒じゃなかったら見える範囲傾斜もきつくなさそうでしたから私も滑ったかも？



夕焼け 6月24日

只今夜の8時半、ベランダで山を見ながらウイスキー飲んでます



エーデルワイス 6月24日

ロートホルンへ上がるつもりが最後のゴンドラがまだ運休中(勉強不足)、仕方なくブラウヘルトからスネガまで3時間かけてゆっくり歩きました。エーデルワイスの群生を二箇所見つけ感動。マーモットはゴンドラの中から1匹、途中で2匹見つけました。



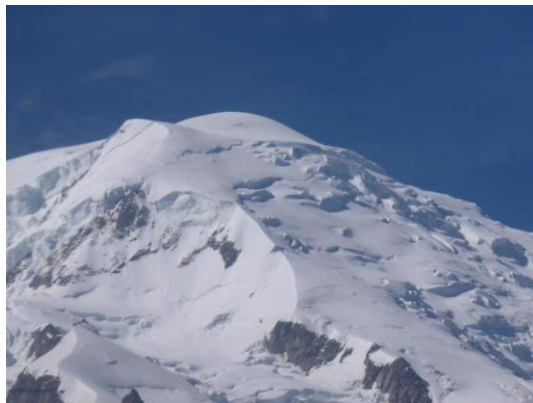
越田和男 6月26日

前半は雨ばかりで同情してましたが、後半はバッチリ空模様で羨望(嫉妬かも)の至り。

後は、スイスのシャスラー種の白ワインを是非現地で楽しんで下さい。

エギーユ・デュ・ミディより 6月27日

私が若ければトライしたいと羨ましく眺めました
斜面を登る小さな点はモンブラン登っている登山者です。双眼鏡で見ると結構登ってましたがこれより上はカメラで撮らえられませんでした。



Re: エーデルワイス 6月27日

越田様、申し訳ありませんありませんが最後の一撃です。

エギーユ・デュ・ミディに上がって来ました。悪天候を嘆いた事が嘘のような好天続きです。さすがに半袖では耐えられませんでした。ダウン一枚を羽織っただけで事足りました。

清く正しい者には神さんが答えてくれるのでしょう。

モンブラン、ランドジョラス北壁、グドリュー。
(シャモニーから)



クロアチア 7月1日

スロヴェニアを訪れた後プリトヴィツェ湖群国立公園に居ます。今日から海へ、アドリア海を走ります。



青の洞窟 7月3日

現地発ツアーに参加して青の洞窟と緑の洞窟に入ってきました。



甲南山岳会は会員の皆様からの応援と会費で運営されています。

卒業以来ご無沙汰のメンバーも、状況が整えばいつでもご参加いただけるよう、できるだけ「門は広く・敷居は低く」を事務局一同心がけております。会費につきましても、現在は遡りなしに現年度の納付をお願いしており、金額も昭和55年から据え置いております。会員諸兄におかれましては諸事情をご賢察のうえ、会費納入に一層のご理解をお願いいたします。なお、会報 山嶽寮 の配付は諸般の事情にて会費納入者を対象にいたします。

編集後記

総会で編集長をやってほしいと言われ困った。文章を書くこと、それ以前に字を書くことが大嫌いな私、しかも山嶽寮なんて現役部員のゼロ〇Ｂもどんどん人数が減ってくる中書く人無くなったら廃刊もしかたなしとドライに思ってる私、とても適任とは思われない。しかし平井会長や若手の幹事の皆さんの顔を見ていると断れない、思わず首を縦に振ってしまった。家に帰って大反省、しかし引き受けた以上投出す事は出来ない。６月になり原稿がぼつぼつ集まってきた、おいどないしたらええねん助けてくれと若手にＳＯＳし丸投げ。編集長の私が何もしない間に出来上がったのがこの山嶽寮です。助けてくれた皆さんに感謝。

ネット人間の私、紙の冊子でなくともホームページの掲示板や山行報告／個人投稿でもええやんと思ってる編集長です、ほっといたら来年以降続きませんよ。続けていくには皆さんの協力が不可欠です。山に関する事に固執する事ないと思います。山嶽寮を続けたかったら何か書いてください、寄稿を待ってます。

原稿宛先
電話/FAX

塩崎将美
Eメール

山嶽寮 第 7 1 号
甲南山岳会
神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学内
2016 年(平成 28 年)10 月
編集人 塩崎将美 印刷 (株) 春日